



分野 7

文化・観光

令和5年度行政評価 有識者による外部評価

担当課	事務事業名	事業概要	現状に対する認識と今後の方向性	評価者	外部評価コメント
アルプスリゾート整備本部	山岳観光推進事業	乗鞍高原周遊バスの運行や各種イベントの負担金など、山岳観光事業の開催及び山岳イベント等を支援し、山岳地域への誘客促進を図るもの	観光を通じて山や自然の魅力や価値を伝えるとともに、保護と利用のバランスや楽しむためのルールについても学習できる、SDGsに配慮した持続可能な観光地を目指す必要がある。広域観光の視点から、二次交通の整備に加え、自然だけでなく歴史文化など多彩で上質な体験と滞在ができるプログラムの開発及び情報発信の強化が必要	松本大学 総合経営学部 観光文化リテラジ学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 山岳地域への誘客促進を図るために、多面的な視点から各事業が展開されていると思われる。ここ数年、コロナ禍の影響で落ち込んでいた活動指標、成果指標が回復傾向にあることから、目標年度に向けて目標値を達成できるように、山岳観光の魅力を発信して頂きたい。 2) 指標の設定 現在の成果指標は「山岳エリア1人当たりの日本人観光消費額」となっているが、外国人観光客について考慮する必要はないだろうか。また、山岳診療所の利用者数、各種イベントの参加者数などを指標に組み込むことを検討しても良いのではないだろうか。 3) 今後の方向性 地域が主体となって取り組んでいる新たな試みが定着するように、事業費にメリハリをつけながら行政としての支援策を検討して頂きたい。
国際音楽祭推進課	文化振興推進事業	地元で縁のある音楽団体等によるストリートライブ「楽都・まつもとライブ」を市民の企画・運営により開催することで、文化芸術活動をより身近なものとし、同時に活動者の励みや生きがいを創出するもの	クラシック音楽に限らない楽都・松本の魅力を市民とともに発信している。市民や松本を訪れた方が気軽に音楽を楽しむ機会を提供するため、継続的、持続的な事業展開が必要。他課の所管する事業との連携を強化する。R4は信毎メディアガーデンで開催し、新たな活動拠点の開拓による「楽都・松本」の魅力づくりを進めている。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテラジ学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 同事業は、市民や観光客が「楽都」を身近に体感できる貴重な場を提供していると思われる。令和4年度は活動拠点の開拓（信毎メディアガーデン）も進められており、事業をさらに前進させようとする姿勢も評価できる。 2) 指標の設定 Webライブの需要が減っているとの指摘があったが、せっかくのコンテンツを活かせるような施策を検討して頂きたい。また「活動者の励みや生きがいを創出する」という事業の趣旨・目的を考えた場合、出演団体数や出演者数などを指標に組み込むことを検討しても良いのではないだろうか。 3) 今後の方向性 「アーティストバンクまつもと」のデータベースを活用するなど、他課の事業との連携を強化して頂きたい。まちなかの賑わいを醸成するために、同事業が果たする役割は大きいと思われる。
文化振興課	松本まちなかアートproject事業	市内で行われている様々なアート活動を1つのプラットフォームに融合し、より多くの人々（市民及び観光客）に発信することで、日常生活の中で文化芸術に触れる機会を増やし、まちなかに魅力と賑わいを創出するもの	推進会議から提案された、まちなかのアート活動をまとめる「まちなかアート事業部」の創設について、芸術文化振興財団で協議していただく。ホームページをリニューアルし発信力を高めるとともに、SNSと連動させ、市内の店舗や施設から情報を集める。年次行事として市民が様々なアートに触れる機会を継続して創出する。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテラジ学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 年間を通じて市内各所で行われている多様なアート活動について、「1つのプラットフォーム」を通じて周知・発信する試みは、「松本＝アート」というイメージを形成する上で重要な取り組みであると思われる。市内の施設・店舗などとも連携しながら、当該事業をさらに前進させて欲しい。 2) 指標の設定 現在の活動指標は「年次行事の鑑賞者」のみとなっているが、年次行事として位置づけるイベント数を増やせば、自ずと目標値を達成できてしまうようにも感じる。むしろ、市民が松本市を「日常的にアートを感じる街」と評価しているかどうか、その点を定期的に調査することが必要なのではないだろうか。 3) 今後の方向性 近年では、マツモト建築芸術祭などのように「アート」を基軸にした新たなイベントも始まってきている。こうしたイベントとも連携しながら、当該事業の充実を図って頂きたい。
生涯学習課	芸術文化事業	松本市芸術文化祭などを通じ、多くの市民が気軽に楽しく文化芸術にふれあえる機会を創出し、市民の主体的、継続的な文化芸術活動の促進を図るもの	コロナの5類移行に伴い参加者数も回復傾向にあり、中止になるイベントもなくなってきたことから、引き続き各団体の取組みを支援したい。盆踊りを継承し、市民にとってより参加しやすい、ふれあいの場とするため、他課と連携を図りつつ、効果的な広報等について検討する必要がある。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテラジ学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 新型コロナウイルスが5類に変更という局面において、各事業とも参加者数が回復傾向にあるという点は評価できる。なお、芸術を基軸とした事業は、他課でも複数展開されているようなので、それらとの連携・統合など、事業のあり方を検討しても良いのではないだろうか。 2) 指標の設定 活動指標のひとつに「お城盆踊り参加者数及びYouTube視聴回数」が示されているが、令和4年度の実績を見る限り、その目標値が適正な水準なのかどうかやや疑問を感じる。YouTubeのライブ配信の実績を踏まえながら、目標値そのものを見直しても良いかもしれない。 3) 今後の方向性 他課はもちろん、各団体と協議しながら、多くの市民にとって参加しやすい「文化芸術活動の場」の創出を検討して頂きたい。

令和5年度行政評価 有識者による外部評価

担当課	事務事業名	事業概要	現状に対する認識と今後の方向性	評価者	外部評価コメント
文化振興課	まつもと市民芸術館事業	松本市民に世界的にも高い水準の芸術文化を創造・鑑賞する場を提供するとともに、市民の芸術文化創造とその支援及び発表の場、市民の交流の場となるよう事業を推進するもの	「まつもと市民芸術館のこれからを考える専門家会議」の提言要旨に沿って検討を進める。 ・芸術監督制は継続すべきであること。 ・次代を担う子どもたちのために必要とされる劇場とすること。 ・スタッフの充実を図ること。 ・市民をパートナーとして協働をすすめること。 ・芸術文化に携わる者を養成すること。 ・芸術文化に必要な予算を確保すること。	松本大学 総合経営学部 観光文化・メディア学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 「まつもと市民芸術館のこれからを考える専門家会議」の提言要旨に沿って、同事業を着実に進めて頂きたい。「市民との協働関係」をすすめることを通じて、広く市民に愛着・誇りを感じてもらえるような文化芸術施設を目指して欲しい。 2) 指標の設定 現在の活動指標は「来場者数」のみとなっているが、上記の指摘を踏まえ、「市民との協働関係」の状況を測定・評価できるような指標を取り入れることも検討できないだろうか。 3) 今後の方向性 新型コロナウイルスが5類に変更という局面において、来場者数・集客数の回復が期待されることである。他課の事業との連携も模索しながら、同事業を着実に前進させて頂きたい。
文化振興課	文化振興推進事業	市の文化芸術の振興及びそのために必要な機能向上を図るための事業等を実施するもの。市民との協働により文化の醸成を図り、市民の文化芸術活動への参画・協力の機会を増やすために協力するもの	令和3年9月に策定した松本市文化芸術推進基本計画に基づき施策を展開する。計画では、他分野との連携により、課題解決や地域の活性化につなげることであり、庁内での連携が必須。令和4年度以降、継続して、計画に掲げる重点施策を中心に事業化に向けた協議を重ねる。 令和4年度中にアーティストバンクまつもと登録者の交流会を2回開催。今後も定期的に開催し登録者同士の横のつながりを生み出すきっかけにするとともにアーティストバンクまつもとの活用を図る。	松本大学 総合経営学部 観光文化・メディア学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 「松本市文化芸術推進基本計画」に掲げる重点施策を中心に、各施策の展開を着実に進めていくことが肝要であると思われる。令和4年度は「アーティストバンクまつもと」の登録者の交流会の開催など、これまでより一歩踏み込んだ活動も進められており、同施策の新たな展開に繋がることを期待したい。 2) 指標の設定 成果指標に「文化施設の来館者及び事業参加者数」とあるが、ここで対象となる文化施設とは、どこまでの範囲を前提としているのだろうか。また令和3年度に盛り返した数が令和4年度で再び減少している点については、どのような評価をしているのだろうか。 3) 今後の方向性 文化芸術振興会議での議論を踏まえながら、着実に計画を進めて頂きたい。上記の計画においても、庁内（他課）との連携が求められているが、その点について具体的な進展を期待したい。
国際音楽祭推進課	国際音楽祭事業	サイトウ・キネン・オーケストラによる世界最高水準の音楽祭を共催するとともに、フェスティバルを支援する市独自の関連事業を実施することで、交響管弦楽及びオペラ等音楽的総合舞台芸術の普及振興、次世代若手音楽家の育成、義務教育世代への音楽情操教育の支援、地域の活性化を図るもの	1992年のフェスティバル開幕以来、楽都・松本の象徴として西洋音楽を松本の地から世界に向け発信し続け、これまでの鑑賞者数は関連事業も含め延べ220万人を超える。ポストコロナ時代においても適切な感染対策を図りつつ文化芸術が楽しめる環境を整え、心豊かな社会の実現及びまちの賑わい創出を目指すため、昨年30周年を迎えた「セイジ・オザワ 松本フェスティバル」を今後も引き続き支援するとともに、開催都市として、配信等を含めた新たな音楽祭のあり方を検討しつつ、関連事業の一層の充実に努める。	松本大学 総合経営学部 観光文化・メディア学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 公式公演以外にも、教育プログラム、スクリーンコンサートなど、多角的な取組みを展開しており、世界的にも高い評価を得ている音楽祭であると思われる。コロナ禍で経験した一部プログラムの配信等、新たな音楽祭として発展できる土壌も備わっている。今後の更なる発展に期待したい。 2) 指標の設定 現在の成果指標は、『フェスティバルを鑑賞して「自分も音楽などの文化・芸術活動をやってみたいと思った人の割合」』のみであるが、同事業の趣旨・目的を考えた場合、「地域の活性化」を測定・評価できるような指標を取り入れることも検討できないだろうか。 3) 今後の方向性 同フェスティバルは、本市のシティプロモーションに大きく寄与する事業である。他課と連携しながら、さらなる誘客の拡大に繋げていく算段を検討して頂きたい。
美術館	美術館事業	市民の芸術文化の振興を図り、文化の薫り高い豊かな市民生活に資するため、美術館が目指す4つの柱（鑑賞・表現・学習・交流の場）を踏まえ、各種展示会事業や草間彌生顕彰事業などを実施するもの	展示会事業は、地域ゆかりや国内外の優れた美術等、時代やジャンルのバランスを考慮し、幅広い世代が文化芸術に触れる機会の創出を目指す。草間顕彰事業は、松本が世界に誇る芸術家として、作品の公開と適切な維持管理や情報発信を継続する。美術館事業は、市の財産であるコレクションの展示活用・収集保存管理に努め、幅広い世代が美術に親める教育普及事業を行う。	松本大学 総合経営学部 観光文化・メディア学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 美術館が目指す4つの柱（鑑賞・表現・学習・交流の場）を前提にした事業がバランスよく展開されていると思われる。まちなかアートプロジェクトとの連携など、館外での取り組みの充実も図られており、市民に美術を身近に感じてもらえる機会を増やせるよう注力していることが伺える。 2) 指標の設定 令和4年度は、成果指標の「企画展の観覧者数」が目標値を大幅に上回っているが、この流れを令和5年度以降も継続して頂きたい。 3) 今後の方向性 美術・アートは、重要な観光資源にもなりうるものである。市民はもちろん、国内外の観光客の需要を広く取り込めるように、他課との連携を進めて頂きたい。

令和5年度行政評価 有識者による外部評価

担当課	事務事業名	事業概要	現状に対する認識と今後の方向性	評価者	外部評価コメント
文化振興課	松本城世界遺産推進事業	国宝松本城を保護・保存し、次世代へ継承するために、松本城の世界文化遺産登録を目指す過程で、登録の前提となる国内の「世界文化遺産暫定一覧表」記載に必要な調査研究及び市民への普及啓発を実施するもの	令和3年3月に文化庁文化審議会が「世界文化遺産暫定一覧表」の見直しを公表。今後見直しに係る文化庁の動きに対応できるよう、調査研究及び登録の機運を高める普及啓発を継続する。	松本大学 総合経営学部 観光社・リテイ学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 「世界文化遺産暫定一覧表」への記載を当面のゴールとすると、山の何合目あたりまで辿り着いているのか、さらに登るためには、具体的にどのような課題があるのかなど、現在の状況について”わかりやすく”市民に示して頂くことで、登録に対する気運をさらに高められるよう注力して頂きたい。 2) 指標の設定 活動指標として「世界遺産推進事業に参加した人数」が設定されているが、同事業ひとまとめではなく、それぞれの取組みに参加した人数（内訳の数）を指標として設定した方が効率的な事業展開に資するのではないだろうか。 3) 今後の方向性 「世界文化遺産暫定一覧表」への記載に向けて、調査研究・普及啓発事業を着実に進めて頂きたい。
文化財課	まつもと文化遺産活用事業	文化財保存活用のアクションプランとして平成30年度に策定した松本市文化財保存活用地域計画に基づき、文化財の活用を図るもの 従来の指定制度による文化財の保存、活用に加え、未指定文化財を含めた面的な活用を図り、地域住民の文化財を活用した地域づくり、まちづくりにつなげていくもの	歴史文化基本構想の策定時に、地域主体で文化財調査を行なったことで、調査成果を活用する動きと文化財を地域で保護する機運を醸成することができた。 「まつもと文化遺産」の認定により、市民による地域の文化財の保存活用を支援するとともに、地域の文化財を広く周知し、市民が主体となった継続的な保存活用を推進する必要がある。	松本大学 総合経営学部 観光社・リテイ学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 市民による地域の文化財の保存活用を支援するための仕組みとして、「まつもと文化遺産」の認定制度には大きな可能性があると思われる。認定団体の活動評価、それをベースにした補助金の拡充等を可能にすることで、新規申請を検討する団体も増えてくるのではないだろうか。 2) 指標の設定 成果指標として「まつもと文化遺産認定件数」が設定されているが、その申請の前提となる地域の関連文化財群の数を考慮すると、もう少し目標値を高くしても良いように思われる。また、認定候補団体への相談支援の数を活動指標として加えても良いかもしれない。 3) 今後の方向性 「まつもと文化遺産」の認定制度が普及・定着し、地域の文化財の保存活用の推進が図られることを期待する。
文化財課	堀浄化対策事業	歴史的な景観及び快適な公園環境・見学環境の維持向上を図るため、松本城の内堀、外堀、総堀の浚渫（堆積物の除去）と水質浄化を実施するもの	令和5年度から令和11年度に浚渫工事を実施する。まず、水源上流（内堀東側）から着手する。堀総合調査の結果に基づき、南・西外堀復元も見据え、浚渫後の水量・水質維持のための手法について、文化庁や有識者と協議する。 浚渫工事の実施に伴い、薬剤散布は中止する。	松本大学 総合経営学部 観光社・リテイ学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 世界文化遺産を目指す上でも、松本城の堀の堆積物除去及び水質浄化は、大きな課題であると思われる。中長期にわたる工事を進める際、市民はもちろん、急速に増えつつある観光客への配慮を如何にするか、他課と連携しながら具体策を検討して頂きたい。 2) 指標の設定 活動指標として「浚渫工事済面積」が設定されているのは、適切であると思われる。令和5年度から実際の工事に着手するとのことなので、まずは浚渫に関する実施計画に基づいて、活動指標の達成に注力して欲しい。 3) 今後の方向性 文化庁や有識者と協議を重ねながら、同事業を着実に前進させて頂きたい。
博物館	博物館事業	松本市立博物館本館と分館15館で、各施設の特徴を生かした資料の収集・保管、調査研究、展示・講座等を実施し、歴史・文化資産に対する市民の理解を深める。 平成12年度に策定した松本まるごと博物館構想に基づき、博物館が市民協働や博物館連携事業を実施することで、学びを通じた「ひとつづくり」「まちづくり」を推進するもの	資料整理は、全館継続的に進める。特別展・企画展は、市立博物館（本館）で開催。分館は資料入替えによる常設展示の充実を図る。市民学芸員の養成は、今後も継続的に進める。新博物館の1階活用について市民学芸員と協力し進める。市民が博物館の学びから松本の魅力に気づき、その魅力を更に高めることでまちづくりに寄与する。	松本大学 総合経営学部 観光社・リテイ学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 新博物館（本館）の開館に寄せられる市民の期待は大きいと思われる。市民学芸員の養成講座、市民学芸員のワークショップの開催など、市民との協働を進める枠組みも整えられている。新博物館（本館）の開館に合わせて、博物館全体のプレゼンスをより一層高めて頂きたい。 2) 指標の設定 活動指標のひとつに「本館の特別展、企画展開催に伴う学芸員が主となる事業の実施数」があるが、令和5年度は10月からの半年間で年間の目標値（16回）を達成するという点であろうか。目標値の設定に関して、再度、確認して頂きたい。 3) 今後の方向性 歴史・文化資産は、重要な観光資源にもなりうるものである。市民はもちろん、国内外の観光客の需要を広く取り込めるように、他課との連携を進めて頂きたい。

令和5年度行政評価 有識者による外部評価

担当課	事務事業名	事業概要	現状に対する認識と今後の方向性	評価者	外部評価コメント
博物館	旧開智学校校舎保存活用事業	国宝旧開智学校校舎の保存と、来館者の安全性を高めるため、耐震対策工事・防災設備工事を行うもの。また、保存活用計画を定め、工事終了後の国宝旧開智学校校舎の活用内容を検討するもの	令和6年秋頃完了を目指し、耐震対策工事及び防災設備工事を継続実施する。旧開智学校校舎のより良い保存活用について、周辺住民や関係課と調整しながら、保存活用計画に示す事業（ユニバーサル化等）の実施を図る。	松本大学 総合経営学部 観光文化・リテラシ学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 後世にわたって国宝旧開智学校校舎を保存するためにも、耐震対策工事、防災設備工事は着実に前進させて頂きたい。令和4年度に策定した『保存活用計画』を実現するためにも、事業の具体化が急務であると考えます。 2) 指標の設定 活動指標として「活用計画策定及び工事進捗率」が設定されているが、前者と後者は2つに区分して表記した方がより適切であるように感じる。 3) 今後の方向性 松本城と並び、国宝旧開智学校校舎は、重要な観光資源のひとつである。市民はもちろん、国内外の観光客の需要を広く取り込めるように、外部協力者、他課と連携しながら、同施設の価値・魅力の発信を進めて頂きたい。
観光プロモーション課	観光宣伝事業	松本市の観光ビジョンの具現化を図りながら、本市の特色を生かして、国内への積極的なプロモーション活動を展開するとともに、広域観光ルートの整備促進、受入態勢の整備、各種イベントの実施、松本シネマ認定作品との連携等により誘客促進を図るもの	新型コロナウイルス感染症拡大防止によるイベントの中止・縮小が解消する方向で国全体が動いており、ポストコロナに向けたプロモーションの強化が必要である。市内で実施されるイベントを活用するとともに周辺自治体等と連携し、大都市圏及び就航先都市等からの誘客促進を図る。観光入込の多い夏季は周遊促進による観光消費の拡大、冬季は宿泊促進による閑散期の底上げを柱に、各種イベント、キャンペーン、松本シネマ認定作品等と連携した観光プロモーションを展開する。	松本大学 総合経営学部 観光文化・リテラシ学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 新型コロナが5類に変更となったことを契機に、国内旅行に対する需要が急速に回復している。各都市において、そうした需要を取り込むべく積極的な観光プロモーションが展開されている。観光関連団体・事業者と連携しながら、これまでとは一味違う観光プロモーションのあり方を模索して頂きたい。 2) 指標の設定 成果指標として「松本市主要観光地入込者数」がひとまとめで設定されているが、これに加えて、例えば●●別に人数を把握するなど、もう少し費用対効果を意識できるような成果指標も設定した方が良いのではないだろうか。 3) 今後の方向性 最近では、マツモト建築芸術祭、まちなかアートプロジェクト、新博物館（本館）の開館など、観光資源として訴求すべき新たなポイントが増えてきている。通年にわたって安定的な誘客を実現できるよう、多面的なプロモーションを展開して頂きたい。
観光プロモーション課	国際観光都市推進事業	市を訪れる外国人旅行者を増やすため、プロモーションの実施及び団体への負担金支出を行うもの。また、市を訪れた外国人旅行者の消費・滞在を伸ばすため、受入環境の整備を行うもの	近年、インバウンド市場が拡大し、松本市でも外国人宿泊者数はコロナ禍前は5年間で174.2%と大きく伸びたが、令和2年度以降、渡航制限がかかり大きく落ち込んでいる。渡航制限が解除されつつあり、今後、外国人旅行者の来訪が急激に回復することが見込まれる。松本市の認知度をさらに向上させ、次の旅行先には選ばれるよう、海外プロモーションを継続することが必要	松本大学 総合経営学部 観光文化・リテラシ学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 新型コロナが5類に変更となったことを契機に、インバウンド市場が急速に拡大してきている。こうした状況下において、海外プロモーションの展開は非常に重要であるが、限られた予算の中においては、各プロモーションに対する費用対効果を把握する努力も必要であると思われる。 2) 指標の設定 活動指標の「パンフレット対応言語数」は、ここ数年、同じ数のままであるが、今後、増やす（増える）計画はあるのだろうか。そうした計画がないのであれば、活動指標に残しておく意味があるのか疑問である。 3) 今後の方向性 外国人観光客受入環境整備事業として、2つの事業が展開されているが、外国人旅行者の消費・滞在を延ばすためには、その他にも整備しなければならないポイントが多々あるように思われる。観光関連団体・事業者と連携しながら、まずは、そうしたポイントの洗い出しを進めて頂きたい。
観光プロモーション課	観光戦略推進事業	観光客誘致促進や滞在型観光を推進するため、アクションプランの実施や観光大使を活用したプロモーションなど効果的な観光施策の展開するもの。また、公式観光情報ポータルサイト「新まつもと物語」による情報発信強化により、誘客促進を図るもの	観光データの調査・分析結果に基づき検討を行い、次期ビジョンを策定する。個人旅行の需要拡大に伴い、SNS等を活用した情報発信が重要である。各観光大使の活動を通して、それぞれの分野を生かした松本の魅力を発信する。公式観光情報サイト「新まつもと物語」を活用し、より魅力のある情報発信を行う。	松本大学 総合経営学部 観光文化・リテラシ学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 新型コロナが5類に変更となったことを契機に、観光大使を活用したプロモーション、公式観光情報ポータルサイトによる情報発信の強化、いずれもその重要性は増してきていると思われる。投入コストに見合う効果が得られるよう、各事業の実施において創意工夫をして頂きたい。 2) 指標の設定 一次評価にも記載されている通り、個人旅行の需要拡大に伴い、SNS等を活用した情報発信も重要になってきている。また、現在、活動指標として「新まつもと物語PV数」のみが設定されているが、SNS等の活用度合いを測定できる指標を加えることを検討しても良いのではないだろうか。 3) 今後の方向性 まずは観光データの調査・分析を丁寧に行い、新たな時代に即した「観光ビジョン」を策定し、上記で示されている事業にとどまらず、具体的な新事業への展開を検討して頂きたい。

令和5年度行政評価 有識者による外部評価

担当課	事務事業名	事業概要	現状に対する認識と今後の方向性	評価者	外部評価コメント
観光プロモーション課	三ガク都魅力発信プロモーション事業	人口集中都市から継続的な誘客を図るため、広告宣伝及び情報発信を始めとする各種事業（観光イベント・商談会等）に取り組むもの。コロナにより旅行形態が国内志向へと変化したため、それに応じた情報発信の強化、誘客を図る。	新型コロナウイルスの5類感染症移行に伴い、全国的に観光客誘致の活発化が予想される。新型コロナによって変化した旅行ニーズに対応しながら、夏のハイシーズンは周遊を促進する事業を、冬の閑散期は宿泊を促進する事業を実施する。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテラジ学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 誘客キャンペーンとして、スタンプラリー、特別宿泊プランが展開されているとのこと。こうしたキャンペーンは、もちろん誘客に対して効果はあると思うが、本当に『新型コロナによって変化した旅行ニーズ』に対応したものとなっているのだろうか。 2) 指標の設定 活動指標として「キャンペーン応募者数」が設定されているが、同事業のスタート当初から目標値を大きく上回っている状況である。目標値の水準の妥当性を再検討すべきではないか。 3) 今後の方向性 『新型コロナによって変化した旅行ニーズ』をどのように捉えるかで、必要となる事業が変わってくると思われる。他事業で実施されている観光データの調査・分析事業と連携させながら、より適切な事業を検討して頂きたい。
観光プロモーション課	観光データ調査分析事業	観光プロモーションに必要なデータを収集・分析し、PDCAサイクルの中で効率的かつ無駄のない精度の高いプロモーションを実施する。令和5年度は、実際に来訪者に対する動向調査を実施する。	コロナ後の観光客の変化を追うため、街頭で実際に松本に来ている国内外の観光客に聞き取り調査を行う。インバウンドが復活していないため、令和5年度から外国人の動向調査を本格的にスタートする。コロナ後の観光は流動的になることが予想されるため、毎年街頭調査を実施する。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテラジ学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 観光動向調査として「街頭での聞き取り調査」を実施しているとのことであるが、こうした調査は調査者の技量で得られる情報が大きく変化すると思われる。調査の実施に際して、調査者に対する事前研修等を十分に行って頂きたい。 2) 指標の設定 活動指標として「国内観光客サンプル数」、「外国人観光客サンプル数」が設定されているが、同事業のスタート当初から、いずれも目標値を大きく上回っている状況である。目標値の水準の妥当性を再検討すべきではないか。 3) 今後の方向性 同事業で得られた定性的なデータを十分に分析し、これからの観光プロモーションに着実に反映させていって頂きたい。
観光プロモーション課	光と水の城下町フェスティバル事業	冬の魅力をアピールし、冬季の誘客促進を図るため、イルミネーションを中心に、氷彫フェスティバルを始め、各イベントと連動した総合的なプロモーションを実施するもの	冬の観光客減少は引き続き課題であり、冬の誘客コンテンツを来年度以降も実施する。令和5年度以降は、城下町松本フェスタ推進事業として、官民連携の組織で通年のイベント開催とプロモーションを実施する。夏の新規イベントも検討する。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテラジ学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 冬季の誘客コンテンツを充実させることは、重要な課題のひとつである。マツモト建築芸術祭など、ここ数年、冬季にも新たなイベントの開催などが増えつつあり、今後、官民連携でこうした取り組みを定着させていくことが肝要であると思われる。 2) 指標の設定 活動指標として「イベント来場者数」が設定されているが、対象となるイベントの数が増えれば、自ずと来場者数は増えることとなる。当該指標の目標値については、適宜、見直しを行うことが必要であると思われる。 3) 今後の方向性 繁忙期以外でも安定的な入込者数を確保できるような取組みに注力して頂きたい。
スポーツ事業推進課	プロスポーツ振興事業	プロスポーツの集客力・求心力を活かし、「みるスポーツ」等による地域振興や、プロスポーツチームや各種競技団体による専門的な技術指導等の提供により競技スポーツ人口の拡大に繋げるなど、プロスポーツを活用し、地域活性化の推進、スポーツ振興を図るもの	ホームゲーム等で市の施策や観光・特産品をPRすることで、効率的に多くの方にアピールすることができる。プロスポーツチームや各種競技団体による専門的な技術指導等により、競技スポーツ人口の拡大に繋がる。新型コロナウイルス感染症により事業が縮小等したが、関係団体と調整して実施することができた。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテラジ学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 同事業の趣旨・目的のひとつに、競技スポーツ人口の拡大というキーワードがあるが、これを実現するためには、「中学部活動出前コーチング」はもちろん、それ以前の年齢層をターゲットとした取組みも検討する必要があるのではないか。 2) 指標の設定 活動指標として「松本山雅FCホームタウンデー松本市ブース来場者数」が設定されているが、新型コロナが5類に変更という局面において、ここ数年、未達であった目標値の達成を実現して欲しい。 3) 今後の方向性 地域活性化の推進・スポーツ振興においてプロスポーツチームが果たしうる可能性は非常に大きいと思われる。関係団体と調整ながら、より大きな効果が得られる取組みとなるよう注力して頂きたい。
スポーツ事業推進課	女子野球タウン推進事業	女子野球タウン認定を契機に、本市、全日本女子野球連盟、スポーツ団体等が連携、協力しながら女子野球を普及・振興する。女子野球を活用して女性スポーツの推進及びジェンダー平等の実現を目指すとともに地域活性化を図るもの	今後も、女子野球を活用して女性スポーツの推進やジェンダー平等の実現につながる事業を進めるとともに市をPRする。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテラジ学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 女子野球という新たな基軸に力点を置いた事業の展開は、本市にとって大きな意義を持っているものと思われる。松本ローズカップの開催などを通じて、地域の中に女子野球の普及・促進という機運が高まることを期待する。 2) 指標の設定 2つの活動指標が設定されているが、まずは目標年度にそれぞれの目標値が達成できるように注力して頂きたい。 3) 今後の方向性 まだまだ松本市の女子野球人口は多いとは言えないが、地道な取組みを通じて、本市が女子野球の先進地となりうるよう進めて頂きたい。プロスポーツ振興事業と連携しながら、女子野球教室の充実を図ることなども検討して欲しい。

令和5年度行政評価 有識者による外部評価

担当課	事務事業名	事業概要	現状に対する認識と今後の方向性	評価者	外部評価コメント
スポーツ事業推進課	パラスポーツ普及啓発事業	パラスポーツをツールとした生涯スポーツを提供し、健常者も障がい者も一緒にスポーツができる環境、共生社会実現を目指す。また関係者の資質向上を図るもの	多くの市民にパラスポーツを知ってもらうため、健常者と障がいのある人が一緒にスポーツできる環境を提供する。パラスポーツが共生社会のツールとなることを周知するため、事業の拡大を図るとともに継続的な活動が必要。また、競技性の高い種目は備品購入が必要である。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテリ学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 共生社会の実現を進めていく上でも、パラスポーツというアプローチは有用であると思われる。市民が広くパラスポーツに参加できる環境を整えることには、それ相応の時間やコストがかかると思われるが、継続的な事業展開を図ることで、同事業の趣旨・目的の達成に努めて頂きたい。 2) 指標の設定 活動指標のひとつに「事業参加延数」が設定されているが、事業の目的に照らして、ここにスタッフの人数も換算したという点はとても良い判断であると思われる。 3) 今後の方向性 多くの市民にパラスポーツを知ってもらうためには、企業参加やDXの関与はもちろん、各教育機関との連携も大切になってくるのではないだろうか。周知の方法については、再度、検討して頂きたい。
アルプスリゾート整備本部	アルプスリゾートブランディング事業	「岳都・松本」を市民の誇りとして認識してもらうとともに、旅行者の満足度を高めてリピート化や滞在型につなげるために、各エリアが持つ特色と魅力を磨き上げ、上質な山岳リゾートの実現を目指す。	世界に冠たる山岳リゾートを実現するため、観光プロモーション課及び観光関連団体と連携してアルプスエリアの魅力効果を効果的に発信し、ポストコロナを見据えた誘客活動を強化する。観光地のエリアブランディングを行うプロジェクトマネージャーを登用し、デジタルコンテンツを活用したプロモーション等を実施する。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテリ学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 旅行者の満足度の向上、それをもとにしたリピート化は、極めて重要な課題であると思われる。山岳エリアのブランド化を進めるために、地域プロジェクトマネージャーという仕組みを取り入れた点は興味深い。この仕組みが有効に機能することを期待したい。 2) 指標の設定 現在の成果指標は「山岳エリア1人当たりの日本人観光消費額」となっているが、外国人観光客について考慮する必要はないだろうか。また、山の日事業で展開されるイベントへの参加者数などを指標に組み込むことを検討しても良いのではないだろうか。 3) 今後の方向性 新たに任用された地域プロジェクトマネージャーと連携しながら、効果的な事業・プロモーションの展開がなされるよう注力して頂きたい。
アルプスリゾート整備本部	乗鞍ゼロカーボンパーク推進事業	乗鞍高原が、国の登録するゼロカーボンパーク第1号に登録されたことから、乗鞍高原における脱炭素・脱プラを推進し、持続可能な観光地として整備するとともに、国内外に乗鞍高原の魅力発信するもの	ゼロカーボンパーク登録初年度だったため、職員、住民や観光事業者も含め、脱プラ・脱炭素についての認識が十分でなかったが、インプットの期間として普及啓発事業を実施することで理解が深まった。次年度は、ゼロカーボンを展開する上で、実践的な内容として引き続き普及啓発事業を実施する。住民とワークショップを重ね、乗鞍観光センターの基本構想・計画を策定した。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテリ学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 乗鞍高原における脱炭素・脱プラ推進という目的に向けて、各事業（普及啓発事業、基本構想・基本計画策定事業、日本みどりのプロジェクト推進事業）とも着実に動き出している。地域住民、事業者の方々との理解を深めるためにも、普及啓発事業を継続的に展開することが重要であると思われる。 2) 指標の設定 成果指標として「普及啓発事業を通して事業化した件数」が設定されている。この点に関して、令和5年度に具体的な成果を出すことは難しいのかもしれないが、目標年度の目標値の達成に向けて、事業化の芽を着実に育てて頂きたい。 3) 今後の方向性 ゼロカーボンパークというキーワードが乗鞍高原の魅力を増幅し、国内外からの誘客をより一層増やせるようになることを期待したい。
アルプスリゾート整備本部	野麦峠スキー場管理事業	市民等のウィンタースポーツの振興、地域の活性化及び雇用の創出を図るため、野麦峠スキー場の更なる利用促進に取り組むもの	「持続可能な奈川地区推進協議会」で奈川地区の今後の在り方を検討していく中で、スキー場の存廃が検討されている。リフトは計画的に整備されているが、リフト以外の施設も更新する必要があり、特に雪不足を補う降雪機の更新は早急に対応しなければならない。持続可能な施設として、グリーンシーズンを含む通年の誘客の仕組みを早急に検討する必要がある。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテリ学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 「持続可能な奈川地区推進協議会」において、スキー場の存廃を含め、奈川地区全体の今後の在り方の検討がなされているとのこと。リフトの整備はもちろん、リフト以外の施設の更新についても多額のコストがかかることから、そのコストに見合った利用方法を検討することが喫緊の課題であると思われる。 2) 指標の設定 成果指標として「野麦峠スキー場利用者数」が設定されている。天候の影響等によって利用者数が増減することは仕方がないが、目標値の達成に向けて、具体的な施策（ソフト面での対応）を検討して頂きたい。 3) 今後の方向性 今後も各種施設の整備を継続するとするならば、グリーンシーズンを含めて、通年を通じた誘客の仕組みを早急に検討する必要があると思われる。

令和5年度行政評価 有識者による外部評価

担当課	事務事業名	事業概要	現状に対する認識と今後の方向性	評価者	外部評価コメント
アルプスリゾート整備本部	上高地観光施設事業	地域活動の重要な施設として、誰もが快適に過ごせるようおもてなしの向上を図るとともに、施設の適正な維持管理に努め、信頼され選ばれる施設として健全な経営につなげる。	令和3年度は、観光業全体と同様に上高地も新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着き、宿泊施設の業績は、コロナ禍以前の9割程度まで回復している。一方で、上高地全体の観光客数はまだ回復しておらず、日帰り利用者が多くを占める上高地食堂の業績は芳しくない。今後は、状況を注視しながら、コロナ収束後に向けた新たなツアーの造成、メニュー開発、また、SNSを活用した情報発信を強化し、収益の増加に取り組む。	松本大学 総合経営学部 観光福祉リハビリ学科長 畑井 治文 教授	1) 内容評価 新型コロナが5類に変更となったことを契機に、今後は、宿泊客はもちろん、日帰り利用者の増加が見込まれる。新規旅行者の獲得も大切であるが、実際に上高地に足を運んで頂いた旅行者の満足度を高めて、リピート率を高めることも重要である。そのために向けた具体策の検討を進めて頂きたい。 2) 指標の設定 現在の成果指標は「山岳エリア1人当たりの日本人観光消費額」となっているが、外国人観光客について考慮する必要はないだろうか。 3) 今後の方向性 施設の維持管理はもちろん、付加価値をつけたツアー、体験プログラムの開発、新メニュー・特産品の開発など、実際に上高地に足を運んで頂いた旅行者が「また来たい」と思うような仕掛けづくりが必要であると思われる。

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	山岳観光推進事業		
担当所属	アルプスリゾート整備本部	連絡先	94-2307
関連所属			

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進				
総合計画	分野	7 文化・観光	中事業名	山岳観光推進事業費	
	基本施策	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進			
事業期間	～	会計種別	一般会計	事業種別	政策的事務
根拠法令要綱					
地域区分	安曇	施設種別		予算要求区分	経常経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 山岳観光事業の開催及び山岳イベント等を支援し、山岳地域への誘客促進を図るもの 内容 1 乗鞍高原周遊バスの運行 乗鞍岳マイカー規制に対する観光振興策（7～10月間の繁忙期15日間） 2 山岳診療所開設支援事業（診療所8カ所、山小屋5カ所） 山岳診療所を開設する大学及び山小屋へ報償費を支出（新型コロナウイルスの影響により、診療所及び山小屋各1カ所が開設中止） 3 各種イベント等への負担金 (1) 乗鞍高原索道事業 (2) 全国山の日協議会 (3) 上高地開山祭（当日の土砂崩落による通行止で中止）、上高地閉山式（新型コロナウイルス感染拡大防止のため縮小）、ウェストン祭（新型コロナウイルス感染拡大防止のため縮小） 4 上高地地区春山除雪費用補助 開山のため上高地町会が実施する遊歩道除雪費用の1/2を補助 5 その他 雪を目的とした誘客を図る「乗鞍岳春山バス事業」の実施	対象指標	①		
			②	
	活動指標	①	山岳エリアの観光客入込数	
		②		
		③		
	成果指標	①	山岳エリア1人当たりの日本人観光消費額	
		②		
		③		
	効率指標	①		
		②		

【今後の方向性】

一次評価（内部評価）		今後の見込み		
今後の実施方向性	継続	前年度の結果	継続	コスト
観光により山や自然が持つ魅力や価値を伝えるとともに、保護と利用のバランスや楽しむためのルールについても学習できる、SDGsに配慮した持続可能な観光地を目指していく必要がある。 広域観光の視点から、二次交通の整備に加え、自然だけでなく歴史文化など多彩で上質な体験と滞在ができるプログラムの開発及び情報発信の強化が必要。				削減
				維持
				増大
成果	上昇			
	維持		○	
	縮小			

二次評価（外部評価）				
1) 内容評価	山岳地域への誘客促進を図るために、多面的な視点から各事業が展開されていると思われる。ここ数年、コロナ禍の影響で落ち込んでいた活動指標、成果指標が回復傾向にあることから、目標年度に向けて目標値を達成できるように、山岳観光の魅力を発信して頂きたい。			
2) 指標の設定	現在の成果指標は「山岳エリア1人当たりの日本人観光消費額」となっているが、外国人観光客について考慮する必要はないだろうか。また、乗鞍高原周遊バスの利用者数、山岳診療所の利用者数、各種イベントの参加者数などを指標に組み込むことを検討しても良いのではないだろうか。			
3) 今後の方向性	地域が主体となって取り組んでいる新たな試みが定着するように、事業費にメリハリをつけながら行政としての支援策を検討して頂きたい。			

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	人	962,700	978,400	1,483,400	2,053,300	2,258,600	R7	66%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
成果指標	①	円		35,797	41,102	46,000	50,000	R7	82%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

成果指標の増減維持理由

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	0	0	122,119	21,265	11,700
事業費	千円			112,159	12,205	11,700
特定財源	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	受益者負担	千円				
	その他	千円				
	一般財源	千円	0	0	112,159	12,205
人件費合計	千円	0	0	9,960	9,060	0
正規職員	千円	0	0	7,560	7,560	0
人員	人			1.0	1.0	
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	0	0	2,400	1,500	0
人員	人			0.8	0.5	
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円					

トータルコストの増減維持理由

令和3年度から令和4年度にかけて款項目の組み換えがあり、移動したため。

【事業の評価】

[目的妥当性評価] 1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか		
一次評価	B	なっている
[有効性評価] 2. 事業内容や方向性が想定する成果や期待する効果に結びつくものになっているか		
一次評価	B	想定する成果や効果に結びつくものになっている
[効率性評価] 3. 事業コストや人的コストが適正なものになっているか		
一次評価	B	なっている

【総合評価】

評価	B	
----	---	--

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	文化振興推進事業		
担当所属	国際音楽祭推進課	連絡先	39-0001
関連所属			

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進				
総合計画	分野	7 文化・観光	中事業名	文化推進振興費	
	基本施策	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進			
事業期間	H29 ~	会計種別	一般会計	事業種別	政策的事務
根拠法令要綱					
地域区分	-	施設種別	-	予算要求区分	政策的経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 市民による企画・運営により、文化芸術活動をより身近なものにし、また同時に活動者の励みや生きがいを創出する。 内容 楽都・まつもとライブ 地元縁のある音楽団体等によるストリートライブの開催及びライブの後日配信 令和4年度(実績) 開催数 16回 出演団体数 34団体 出演者数 105人 鑑賞者数 7,567人 webライブ再生数 9,800回	対象指標	
	①	
	②	
	活動指標	
	①	楽都・まつもとライブ来場者数及びwebライブ再生数
	②	
	③	
	成果指標	
	①	
	②	
	③	
	効率指標	
	①	
②		

【今後の方向性】

一次評価(内部評価)		今後の見込み			
今後の実施方向性	継続	前年度の結果	継続	コスト	
・クラシック音楽に限らない楽都・松本の魅力を市民とともに発信している。 ・市民や松本を訪れた方が気軽に音楽を楽しめる機会を提供するため、継続的、持続的な事業展開が必要 ・他課の事業との連携を強化する。 ・R4は信毎メディアガーデンで開催し、新たな活動拠点の開拓による「楽都・松本」の魅力づくりを進めている。		削減 維持 増大			
		成果	上昇		
			維持	○	
			縮小		

二次評価(外部評価)				
1) 内容評価 同事業は、市民や観光客が「楽都」を身近に体感できる貴重な場を提供していると思われる。R4年度は活動拠点の開拓(信毎メディアガーデン)も進められており、事業をさらに前進させようとする姿勢も評価できる。 2) 指標の設定 Webライブの需要が減っているとの指摘があったが、せっかくのコンテンツを活かせるような施策を検討して頂きたい。また「活動者の励みや生きがいを創出する」という事業の趣旨・目的を考えた場合、出演団体数や出演者数などを指標に組み込むことを検討しても良いのではないだろうか。 3) 今後の方向性 「アーティストバンクまつもと」のデータベースを活用するなど、他課の事業との連携を強化して頂きたい。まちなかの賑わいを醸成するために、同事業が果たしうる役割は大きいと思われる。				

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	人及び回/年	10,529	11,360	17,367	15,000	15,000	R5	116%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
成果指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

新型コロナウイルス感染症の影響で減少した人出が戻りライブに足を止める人が増えてきているため来場者は増加傾向にある。ただし、それに伴って配信ライブの需要が徐々に減ってきている。

成果指標の増減維持理由

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	1,626	1,626	1,626	1,626	1,626
事業費	千円	570	570	570	570	570
特定財源	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	受益者負担	千円				
	その他	千円				
	一般財源	千円	570	570	570	570
人件費合計	千円	1,056	1,056	1,056	1,056	1,056
正規職員	千円	756	756	756	756	756
人員	人	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	300	300	300	300	300
人員	人	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円					

トータルコストの増減維持理由

事業の維持に必要な最低限の費用によって1年間を市民有志団体が主体に運営しているため、現状維持としたい。

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか	
一次評価	A 市の目指す姿に大きく貢献する事業 楽都・松本として市民に街中で気軽に音楽を楽しむ環境を提供するとともに、アマチュアミュージシャンに活動の場を提供することで音楽の技術を発表する機会を創生している。
【有効性評価】 2. 事業内容や方向性が想定する成果や期待する効果に結びつくものになっているか	
一次評価	A 想定以上の成果や効果に結びつくものになっている
【効率性評価】 3. 事業コストや人的コストが適正なものになっているか	
一次評価	A かけたコスト以上の成果や効果につながっている事業

【総合評価】

評価	A
----	---

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	松本まちなかアートproject事業		
担当所属	文化振興課	連絡先	0263-34-3293
関連所属			

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進				
総合計画	分野	7 文化・観光	中事業名	松本まちなかアートproject事業費	
	基本施策	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進			
事業期間	R4 ~ R9	会計種別	一般会計	事業種別	政策的事務
根拠法令要綱					
地域区分	-	施設種別	-	予算要求区分	政策的経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 市内で行われている様々なアート活動を、1つのプラットフォームに融合させ、より多くの人々（市民及び観光客）に発信することで、日常生活の中で文化芸術に触れる機会を増やし、まちに魅力と賑わいを創出させる。 内容 1 既存ツールなどを利用したアート活動の情報発信 令和3年度に開設されたホームページを継承し、市内で開催されるアートイベントを周知・発信するもの 2 年次行事の実施 令和4年度は「第1回まつもと街なか大道芸&ジャズフェスティバル」を開催 令和5年度は「第2回まつもと街なか大道芸&ジャズフェスティバル」、「山崎貴の世界展 まちなか出張展」を開催予定 3 松本まちなかアートproject推進会議からの提案 令和4年度は、松本市が「日常的にアートを感じる街」となるため、推進会議を設置し、新たな松本スタイルの検討を行った。 令和5年度は、「運営会議」に名称を変更し、活動の評価や具体的手法を検討していく。	対象指標	①	
	②		
	活動指標	①	年次行事の鑑賞者数
	②		
	③		
	成果指標	①	
	②		
	③		
	効率指標	①	
	②		

【今後の方向性】

一次評価 (内部評価)		今後の見込み			
今後の実施方向性	継続	前年度の結果			
推進会議から提案された、まちなかのアート活動をまとめる「まちなかアート事業部」の創設について、芸術文化振興財団でご協議いただく。 ホームページの発信力が弱いため、ホームページのリニューアルやSNSと連動させ、市内の店舗や施設から情報を集める。 年次行事として市民が様々なアートに触れる機会の創出を継続する。		成果	コスト		
			削減	維持	増大
			上昇	維持	縮小

二次評価 (外部評価)

1) 内容評価 年間を通じて市内各所で行われている多様なアート活動について、「1つのプラットフォーム」を通じて周知・発信する試みは、「松本=アート」というイメージを形成する上で重要な取り組みであると思われる。市内の施設・店舗などとも連携しながら、当該事業をさらに前進させて欲しい。				
2) 指標の設定 現在の活動指標は「年次行事の鑑賞者」のみとなっているが、年次行事として位置づけるイベント数を増やせば、自ずと目標値を達成できてしまうようにも感じる。むしろ、市民が松本市を「日常的にアートを感じる街」と評価しているかどうか、その点を定期的に調査することが必要なのではないだろうか。				
3) 今後の方向性 近年では、マツモト建築芸術祭などのように「アート」を基軸にした新たなイベントも始まってきている。こうしたイベントとも連携しながら、当該事業の充実を図って頂きたい。				

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	人/年	0	0	8,450	37,500	70,000	R07	12%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
成果指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

令和4年度の「第1回まつもと街なか大道芸&ジャズフェスティバル」は、悪天候であったため鑑賞者が少なかった。令和5年度以降は、令和4年度に実施したものと同様の規模で実施するものの、徐々に鑑賞者数が増加することを見越したため。

成果指標の増減維持理由

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	0	0	0	17,729	20,774
事業費	千円				7,145	10,190
特定財源	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	受益者負担					
	その他					
	一般財源	千円	0	0	0	7,145
人件費合計	千円	0	0	0	10,584	10,584
正規職員	千円	0	0	0	10,584	10,584
人員	人				1.4	1.4
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	0	0	0	0	0
人員	人					
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円					

トータルコストの増減維持理由

報償費のうち、令和4年度に実施した「推進会議」が「運営会議」として回数を減らして実施するため減少している。
負担金のうち、令和5年度は「第2回まつもと街なか大道芸&ジャズフェスティバル」と「山崎貴の世界展 まちなか出張展」の2つのイベントを実施するため増加している。

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか		
一次評価	B	なっている
【有効性評価】 2. 事業内容や方向性が想定する成果や期待する効果に結びつくものになっているか		
一次評価	C	概ね結びつくものになっている
【効率性評価】 3. 事業コストや人的コストが適正なものになっているか		
一次評価	B	なっている

【総合評価】

評価	B		
----	---	--	--

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	来場者数	71,719	162,593	159,770	156,000		R7	#DIV/0!
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
成果指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

令和3年度に比べ、大型事業が少なかった（歌舞伎公演がなかった）ため

成果指標の増減維持理由

R2、3年度ともにコロナの影響により来場者は少ない。

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	107,560	107,560	107,560	107,560	100,000
事業費	千円	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
特定財源	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	受益者負担					
	その他					
	一般財源	千円	100,000	100,000	100,000	100,000
人件費合計	千円	7,560	7,560	7,560	7,560	0
正規職員	千円	7,560	7,560	7,560	7,560	0
人員	人	1.0	1.0	1.0	1.0	
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	0	0	0	0	0
人員	人					
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円					

トータルコストの増減維持理由

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか	
一次評価	A 市の目指す姿に大きく貢献する事業 松本市を代表する文化芸術施設として、市内外から高い評価の劇場である。
【有効性評価】 2. 事業内容や方向性が想定する成果や期待する効果に結びつくものになっているか	
一次評価	A 想定以上の成果や効果に結びつくものになっている 令和3年度に組織した「まつもと市民芸術館のこれからを考える専門家会議」から、令和4年に提言をいただいた内容から、高い成果について評価をいただいている。
【効率性評価】 3. 事業コストや人的コストが適正なものになっているか	
一次評価	A かけたコスト以上の成果や効果につながっている事業 指定管理者制度のもと、効率的な運営ができています。

【総合評価】

評価	A
----	---

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	芸術文化事業		
担当所属	生涯学習課	連絡先	0263-32-1132
関連所属			

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進				
総合計画	分野	7 文化・観光	中事業名	芸術文化事業費	
	基本施策	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進			
事業期間	～	会計種別	一般会計	事業種別	政策的事務
根拠法令要綱					
地域区分	—	施設種別	—	予算要求区分	経常経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 多くの市民が気軽に楽しく文化芸術にふれあえる機会を創出し、市民の主体的、継続的な文化芸術活動の促進を図るもの 内容 (1) 松本市芸術文化祭事業 地域に根差した文化芸術を育むために、「松本市芸術文化祭実行委員会」へ委託し通年発表会や公演、展示会を開催するもの ア 松本市芸術文化祭(参加者数18,402人) 上演部門は昨年度に比べて、多くの事業を実施することができた(11→16事業) 展示部門は、コロナの影響により令和3年の事業数と入場者に減少がみられたが、令和4年度は全ての展示イベントが実施でき、入場者数の回復が見られた。 実施率：上演の部16/21=76%、展示の部10/10=100% 委託料：3750千円 (2) お城盆踊り 市の象徴、国宝松本城のもとで郷土愛を育み、市民と観光客等の交流を図り、松本らしい文化を継承する盆踊りを開催するもの ア 新型コロナウイルスのため、R2・R3に開催を見送った。 R4の開催に向け、松本レクリエーション協会と協議を行い、コロナ感染対策をとり開催した。 イ 中央公民館主催で、民踊講習会を計13回開催 ウ ゆかたキャンペーン実行委員会と連携し、事業PRを行った。 エ 初日の盆踊りの様子をYouTubeにてライブ配信を行った。	対象指標	①	
	②		
	活動指標	①	松本市芸術文化祭への参加者数
	②	お城盆踊り参加者数及びYouTube視聴回数	
	③		
	成果指標	①	
	②		
	③		
	効率指標	①	
	②		

【今後の方向性】

一次評価 (内部評価)		今後の実施方向性		継続	前年度の結果	継続	今後の見込み			
成果	上昇 維持 縮小	・コロナが5類になったことで、参加者数も回復傾向にあり、中止となるイベントもなくなってきたことから引き続き各団体の取組を支援していきたい。 ・盆踊りを継承し、市民にとってより参加しやすく、ふれあいの場とするため、他課とも連携を図りつつ、効果的な広報等について検討していく必要がある。					コスト	削減	維持	増大

二次評価 (外部評価)		1) 内容評価		2) 指標の設定		3) 今後の方向性				
		新型コロナウイルスが5類に変更という局面において、各事業とも参加者数が回復傾向にあるという点は評価できる。なお、芸術を基軸とした事業は、他課でも複数展開されているようなので、それらとの連携・統合など、事業のあり方を検討しても良いのではないだろうか。		活動指標のひとつに「お城盆踊り参加者数及びYouTube視聴回数」が示されているが、R4年度の実績を見る限り、その目標値が適正な水準なのかどうかやや疑問を感じる。YouTubeのライブ配信の実績を踏まえながら、目標値そのものを見直しても良いかもしれない。		他課はもちろん、各団体と協議しながら、多くの市民にとって参加しやすい「文化芸術活動の場」の創出を検討して頂きたい。				

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	人	6,580	5,094	18,402	22,100	22,100		83%
	②	人	0	213	1,987	2,000	800		248%
	③								#DIV/0!
成果指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

・コロナ禍でのイベントのあり方が見直される中、3年ぶりに開催できたイベントや、制限を緩和して実施できた。
 ・3年ぶりにお城盆踊りを開催し、2日間実施した（3日目は雨天中止）。各日300名の参加があり、初日はYouTubeにてライブ配信を行った。

成果指標の増減維持理由

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	12,677	4,518	4,732	6,935	7,738
事業費	千円	10,109	1,950	2,164	4,367	5,170
特定財源	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	受益者負担					
	その他					
	一般財源	千円	10,109	1,950	2,164	4,367
人件費合計	千円	2,568	2,568	2,568	2,568	2,568
正規職員	千円	2,268	2,268	2,268	2,268	2,268
人員	人	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	300	300	300	300	300
人員	人	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円					

トータルコストの増減維持理由

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか		
一次評価	B	なっている
【有効性評価】 2. 事業内容や方向性が想定する成果や期待する効果に結びつくものになっているか		
一次評価	B	想定する成果や効果に結びつくものになっている
【効率性評価】 3. 事業コストや人的コストが適正なものになっているか		
一次評価	B	なっている

【総合評価】

評価	B	
----	---	--

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	文化振興推進事業		
担当所属	文化振興課	連絡先	0263-34-3293
関連所属			

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進				
総合計画	分野	7 文化・観光	中事業名	文化振興推進費	
	基本施策	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進			
事業期間	R3 ~ R12	会計種別	一般会計	事業種別	その他
根拠法令要綱	松本市文化芸術表彰要綱・松本市各種協議会、発表会等出場者祝金交付要綱				
地域区分	-	施設種別	-	予算要求区分	経常経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 松本市の文化芸術の振興及びそのために必要な機能向上を図るための事業等を実施するもの 市民との協働による文化の醸成を図り、市民の文化芸術活動への参画・協力の機会を増やすために協力するもの 内容 松本市文化芸術推進基本計画に基づく施策を推進し、松本市の文化芸術振興を図るもの(計画期間R3~R12) 1 文化芸術表彰 功労賞4件 文化芸術活動において顕著な成果を収めた個人・団体及び地域の文化芸術振興に貢献した個人・団体を表彰するもの 2 松本市文化・スポーツ大会出場子ども応援祝金交付(29件/年交付) 各種文化・スポーツ大会に出場する市民に対し、祝金を交付するもの ※ 令和5年度から要綱改正予定 3 文化芸術振興審議会 文化芸術の振興を図るため、「松本市文化芸術推進計画(令和3年度策定)」に関する施策等について、現状把握や議論をするもの 4 まつもと演劇祭補助金交付 市内で活躍する演劇団体の演劇祭に対して補助するもの 5 アーティストバンクまつもと 松本市にゆかりのあるアーティストを掘り起こし、情報を集めて公開登録アーティスト数90団体・個人 6 (一財)松本市芸術文化振興財団事務局事務 松本市芸術文化振興財団の運営に係る業務委託	対象指標	①	
	②		
	活動指標	①	祝金の交付件数
	②		
	③		
	成果指標	①	文化施設の来館者及び事業参加者数
	②		
	③		
	効率指標	①	
	②		

【今後の方向性】

一次評価(内部評価)		今後の見込み				
今後の実施方向性	継続	前年度の結果	継続	コスト		
・令和3年9月に策定した松本市文化芸術推進基本計画に基づき施策を展開する。計画では、他分野の連携により、課題解決や地域の活性化につなげることであり、庁内での連携が必須。令和4年度以降から継続して、計画に掲げる重点施策を中心に事業化に向けた協議を重ねる。 ・令和4年度中にアーティストバンクまつもとと登録者の交流会を2回開催。今後も定期的に開催し登録者同士の横のつながりを生み出すきっかけにするとともにアーティストバンクまつもとの活用を図る。				削減	維持	増大
	成果	上昇				
		維持			○	
	縮小					

二次評価(外部評価)

1) 内容評価 「松本市文化芸術推進基本計画」に掲げる重点施策を中心に、各施策の展開を着実に進めていくことが肝要であると思われる。R4年度は「アーティストバンクまつもと」の登録者の交流会の開催など、これまでより一歩踏み込んだ活動も進められており、同施策の新たな展開に繋がることを期待したい。				
2) 指標の設定 成果指標に「文化施設の来館者及び事業参加者数」とあるが、ここで対象となる文化施設とは、どこまでの範囲を前提としているのだろうか。またR3年度に盛り返した数がR4年度で再び減少している点については、どのような評価をしているのだろうか。				
3) 今後の方向性 文化芸術振興会議での議論を踏まえながら、着実に計画を進めて頂きたい。上記の計画においても、庁内(他課)との連携が求められているが、その点について具体的な進展を期待したい。				

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	件/年	10	28	29	10	30	R7	97%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
成果指標	①	人/年	94,823	197,343	119,344	265,225	330,000	R7	36%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

令和2年度から令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大により、大会の開催、大会出場者数が減少したため、交付対象者が減少した。大会祝金は令和5年度から制度を改正し、全国大会以上出場者に交付。

成果指標の増減維持理由

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により文化施設の来館者及び事業参加者数が減少した。

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	37,671	38,613	65,831	31,602	31,612
事業費	千円	7,755	8,397	51,323	17,550	17,560
特定財源	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	受益者負担	千円				
	その他	千円				
	一般財源	千円	7,755	8,397	51,323	17,550
人件費合計	千円	29,916	30,216	14,508	14,052	14,052
正規職員	千円	27,216	27,216	13,608	12,852	12,852
人員	人	3.6	3.6	1.8	1.7	1.7
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	2,700	3,000	900	1,200	1,200
人員	人	0.9	1.0	0.3	0.4	0.4
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円					

トータルコストの増減維持理由

令和元～2年度は部庶務の事務費を含む。令和2～3年度は演劇祭が新型コロナウイルス感染拡大により開催できなかったため決算に含まない。令和2～5年度は文化芸術表彰式典音響委託料を含む。令和3年度は芸術文化振興基金積立金及び負担金(信州まつもと大歌舞伎市民活動事業)を含む。令和5年度は松本市文化・スポーツ大会出場子ども応援祝金交付要綱の改正により賞賜金が増加

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか		
一次評価	B	なっている
【有効性評価】 2. 事業内容や方向性が想定する成果や期待する効果に結びつくものになっているか		
一次評価	B	想定する成果や効果に結びつくものになっている
【効率性評価】 3. 事業コストや人的コストが適正なものになっているか		
一次評価	B	なっている

【総合評価】

評価	B		
----	---	--	--

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	国際音楽祭事業		
担当所属	国際音楽祭推進課	連絡先	39-0001
関連所属			

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進				
総合計画	分野	7 文化・観光	中事業名	国際音楽祭事業費	
	基本施策	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進			
事業期間	H4 ~	会計種別	一般会計	事業種別	政策的事務
根拠法令要綱					
地域区分	-	施設種別	-	予算要求区分	政策的経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 交響管弦楽及びオペラ等音楽的総合舞台芸術の普及振興、次世代若手音楽家の育成、義務教育世代への音楽情操教育の支援、地域の活性化を図るため、サイトウ・キネン・オーケストラによる世界最高水準の音楽祭を共催するとともに、フェスティバルを支援する市独自の関連事業を実施するもの。 内容 1 セイジ・オザワ 松本フェスティバル (1) 公式公演（オーケストラコンサート、オペラ、室内楽など） (2) 教育プログラム（子どものための音楽会、子どものためのオペラ） (3) その他事業（スクリーンコンサートなど） 2 支援事業・関連事業 (1) 歓迎装飾事業（歓迎フラッグの掲出、歓迎ディスプレイの設置） (2) 広報宣伝事業（広告掲載、ポスター・リーフレット等の作成・配布） (3) 環境整備事業（会場周辺の花装飾、告知看板等製作設置等） (4) 演奏会運営の支援協力事業（ボランティア組織と共創した運営等）	対象指標	①		
			②	
		活動指標	①	市民ボランティア組織「OMF コンチェルト」の登録者数
			②	
			③	
		成果指標	①	フェスティバルを鑑賞して「自分も音楽などの文化・芸術活動をやってみたいと思った人の割合」
			②	
			③	
		効率指標	①	
			②	

【今後の方向性】

一次評価 (内部評価)			
今後の実施方向性	継続	前年度の結果	継続
1992年のフェスティバル開幕以来、楽都・松本の象徴として西洋音楽を松本の地から世界に向け発信し続け、これまでの鑑賞者数は関連事業も含め延べ220万人を超える。コロナ禍においても適切な感染対策を図りつつ文化芸術が楽しめる環境を整え、心豊かな社会の実現及びまちの賑わい創出を目指すため、昨年30周年を迎えた「セイジ・オザワ 松本フェスティバル」を今後も引き続き支援していくとともに、開催都市として、配信等を含めた新たな音楽祭のあり方を検討しつつ、関連事業の一層の充実に努める。			今後の見込み コスト 削減 維持 増大 成果 上昇 ○ 維持 縮小

二次評価 (外部評価)			
1) 内容評価	公式公演以外にも、教育プログラム、スクリーンコンサートなど、多角的な取り組みを展開しており、世界的にも高い評価を得ている音楽祭であると思われる。コロナ禍で経験した一部プログラムの配信等、新たな音楽祭として発展できる土壌も備わっている。今後の更なる発展に期待したい。		
2) 指標の設定	現在の成果指標は、『フェスティバルを鑑賞して「自分も音楽などの文化・芸術活動をやってみたいと思った人の割合」』のみであるが、同事業の趣旨・目的を考えた場合、「地域の活性化」を測定・評価できるような指標を取り入れることも検討できないだろうか。		
3) 今後の方向性	同フェスティバルは、本市のシティプロモーションに大きく寄与する事業である。他課と連携しながら、さらなる誘客の拡大に繋げていく算段を検討して頂きたい。		

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	人	—	426	445	420	460	R7	97%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
成果指標	①	%	—	—	67	68	70	R7	95%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

・年度によって演目や公演数が異なり、それに合わせボランティアの人数も変動するため

成果指標の増減維持理由

・R 2年度、R 3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により公演中止となったため、来場者アンケート未実施

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	226,001	42,205	196,573	272,377	211,388
事業費	千円	200,033	16,237	170,605	246,409	185,420
特定財源	国庫支出金	千円	15,000		16,178	60,720
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	受益者負担	千円				
	その他	千円				
	一般財源	千円	185,033	16,237	154,427	185,689
人件費合計	千円	25,968	25,968	25,968	25,968	25,968
正規職員	千円	21,168	21,168	21,168	21,168	21,168
人員	人	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	4,800	4,800	4,800	4,800	4,800
人員	人	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円					

トータルコストの増減維持理由

・令和2年度は5月にフェスティバルの開催中止が決定
 ・令和3年度は開幕直前の8月にフェスティバルの全公演開催中止が決定（無観客でのオーケストラコンサートの収録及びオンライン配信を実施）

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか	
一次評価	A 市の目指す姿に大きく貢献する事業 フェスティバルの開催により、公式公演や小・中学生を招待した公演などの鑑賞をはじめ、ボランティア組織や歓迎吹奏楽パレードなどへの参加を通し子どもから大人まで幅広い世代の方が携わることで、開幕以来30年以上の長きにわたり多くの方が文化芸術に親しむ機会を創出するとともに、松本の夏の風物詩として期間中は毎年県内外から多くの来訪者があり、まちの賑わいに貢献している。
【有効性評価】 2. 事業内容や方向性が想定する成果や期待する効果に結びつくものになっているか	
一次評価	A 想定以上の成果や効果に結びつくものになっている 来場者アンケートから、鑑賞して「自分の感性が豊かになったと思う人」や「文化・芸術の楽しみ方が分かった人」の割合が高く、世界中から優れた音楽家たちが集結し、フェスティバルのために特別編成されるサイトウ・キネン・オーケストラを中心としたオーケストラコンサートやオペラ、室内楽など世界最高水準の音楽祭を開催することが高い割合で意識変容に結びついていることが認められる。
【効率性評価】 3. 事業コストや人的コストが適正なものになっているか	
一次評価	A かけたコスト以上の成果や効果につながっている事業 2013年のラヴェル：歌劇《こどもと魔法》を収録したCDアルバムが第58回グラミー賞のクラシック部門「ベスト・オペラ・レコーディング」を受賞するなど音楽的に国内外で高い評価を得るとともに、経済的にも2019年に実施した開催効果等に関する調査結果から約12億円の経済波及効果が算出された。また、「楽都・松本」の象徴として多くの市民に愛され支えられ文化度の向上に寄与している。

【総合評価】

評価	A
----	---

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	美術館事業		
担当所属	美術館	連絡先	39-7400
関連所属			

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進				
総合計画	分野	7 文化・観光	中事業名	美術館事業費	
	基本施策	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進			
事業期間	H14 ~	会計種別	一般会計	事業種別	政策的事務
根拠法令要綱	博物館法、文化芸術基本法				
地域区分	-	施設種別	-	予算要求区分	経常・政策的経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 市民の芸術文化の振興を図り、文化の薫り高い豊かな市民生活に資するため、美術館が目指す4つの柱（鑑賞・表現・学習・交流の場）を踏まえた事業を実施する。 内容 1 展覧会事業 年4回の企画展を開催した。（人数は観覧者数） (1) 「よみがえる正倉院宝物」25,587人 (2) 「草間彌生 版画の世界」45,390人 (3) 「鹿児島市立美術館名品展」18,477人 (4) 「第9回 老いるほど若くなる」9,599人 2 草間彌生顕彰事業 R3年度の大規模改修工事による休館前に引き続き、コレクション展示室にて新たな拡大特集展示を開催したほか、紹介パンフレット増刷や草間作品の維持管理を行った。 3 美術館事業 (1) コレクション展示（上條信山記念展示室、田村一男記念展示室、池上百竹亭コレクション） 各展示室にて年4回展示替えを行い収蔵品を公開した。 (2) 教育普及 各年代を対象とした美術講座やワークショップ、学校への出前講座等を実施した。 実施数：58回 (3) 調査研究・保存管理 作品の保存管理や展示のため、修復・額装や館内環境調査を行った。 実施数：日本画修復2点	対象指標	①	
	②		
	活動指標	①	講座等の実施数
	②		
	③		
	成果指標	①	企画展の観覧者数
	②	コレクション展示の観覧者数	
	③		
	効率指標	①	
	②		

【今後の方向性】

一次評価（内部評価）		今後の見込み		
今後の実施方向性	継続	前年度の結果	継続	
・展覧会事業は、地域ゆかりや国内外の優れた美術等、時代やジャンルのバランスを考慮し、幅広い世代が文化芸術に触れる機会の創出を目指す。 ・草間顕彰事業は、松本が世界に誇る芸術家として、作品の公開と適切な維持管理や情報発信を継続する。 ・美術館事業は、市の財産であるコレクションの展示活用・収集保存管理に努め、幅広い世代が美術に親める教育普及事業を行う。				コスト 削減 維持 増大 成果 上昇 維持 ○ 縮小

二次評価（外部評価）				
1) 内容評価 美術館が目指す4つの柱（鑑賞・表現・学習・交流の場）を前提にした事業がバランスよく展開されていると思われる。まちなかアートプロジェクトとの連携など、館外での取り組みの充実も図られており、市民に美術を身近に感じてもらえる機会を増やせるよう注力していることが伺える。 2) 指標の設定 R4年度は、成果指標の「企画展の観覧者数」が目標値を大幅に上回っているが、この流れをR5年度以降も継続して頂きたい。 3) 今後の方向性 美術・アートは、重要な観光資源にもなりうるものである。市民はもちろん、国内外の観光客の需要を広く取り込めるように、他課との連携を進めて頂きたい。				

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	回/年	6	43	58	50	50	R7	116%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
成果指標	①	人/年	47,120	0	99,503	81,000	81,000	R5	123%
	②	人/年	57,007	0	69,034	68,000	68,000	R5	102%
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

令和2～3年度はコロナ禍や大規模改修工事による休館のため中止や未実施の事業があったが、4年度のリニューアルオープン後は通常開館により以前の状況を取り戻している。

成果指標の増減維持理由

令和3年度は大規模改修工事による休館をしていたため、令和4年度はリニューアルオープンのリバウンド需要が大きかったとみられる。観覧者のニーズに合ったのか、企画展とコレクション展示を併せて鑑賞する来館者が多く、企画展観覧者数が目標を大幅に上回った。令和5年度以降は、コロナ禍以前の状況に回復することを目標とする。

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	154,791	84,342	80,112	173,700	158,200
事業費	千円	106,431	35,982	36,312	125,340	109,840
特定財源	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	受益者負担	53,083	24,330		57,730	29,010
	その他	15	70		3,270	230
	一般財源	53,333	11,582	36,312	64,340	80,600
人件費合計	千円	48,360	48,360	43,800	48,360	48,360
正規職員	千円	45,360	45,360	37,800	45,360	45,360
人員	人	6.0	6.0	5.0	6.0	6.0
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	3,000	3,000	6,000	3,000	3,000
人員	人	1.0	1.0	2.0	1.0	1.0
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円					

トータルコストの増減維持理由

令和2年度は中止事業あり。3年度は大規模改修工事により休館。4年度はリニューアルオープンに伴う新規会場設営等があったため、全体のコストが増加。5年度に開催する企画展「映画監督 山崎貴の世界」はテレビ信州との共同主催により観覧料収入が折半となること、また新規事業としてまちなかアートのための作品制作が追加されたことにより全体のコストが増加している。

【事業の評価】

[目的妥当性評価] 1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか		
一次評価	B	なっている
[有効性評価] 2. 事業内容や方向性が想定する成果や期待する効果に結びつくものになっているか		
一次評価	B	想定する成果や効果に結びつくものになっている
[効率性評価] 3. 事業コストや人的コストが適正なものになっているか		
一次評価	B	なっている

【総合評価】

評価	B		
----	---	--	--

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	松本城世界遺産推進事業		
担当所属	文化振興課	連絡先	0263-34-3293
関連所属			

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-2 歴史・文化遺産の継承				
総合計画	分野	7 文化・観光	中事業名	松本城世界遺産推進費	
	基本施策	7-2 歴史・文化遺産の継承			
事業期間	H13 ~ R12	会計種別	松本城特別会計	事業種別	政策的事務
根拠法令要綱					
地域区分	-	施設種別	-	予算要求区分	政策的経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 国宝松本城を保護・保存し、次世代へ継承するために、松本城の世界文化遺産登録を目指す過程で、登録の前提となる国内の「世界文化遺産暫定一覧表」記載に必要な調査研究及び市民への普及啓発を実施するもの。 内容 1 松本城世界遺産調査研究事業 (1) 文化庁の審議結果に係る課題を解決するための調査研究事業 (2) 姫路城を含む国宝5城「近世城郭の天守群」のシリアル・ノミネーション（連続する資産）での登録へ向けた関係県市等との連携推進 2 松本城世界遺産普及啓発事業 「国宝松本城を世界遺産に」推進実行委員会における、市民と行政等の協働による普及啓発事業を実施し、松本城の現状や世界遺産登録に向けた取組み等について、市民へ広く周知する。	対象指標	
	①	
	②	
	活動指標	
	①	世界遺産推進事業に参加した人数
	②	
	③	
	成果指標	
	①	
	②	
	③	
	効率指標	
	①	
②		

【今後の方向性】

一次評価 (内部評価)					
今後の実施方向性	継続	前年度の結果	拡大		
・令和3年3月に文化庁文化審議会が「世界文化遺産暫定一覧表」の見直しを公表した。 ・今後見直しに係る文化庁の動きに対応できるよう、調査研究及び登録の機運を高める普及啓発を継続して行う。	今後の見込み		コスト		
			削減	維持	増大
	成果	上昇			
	維持		○		
	縮小				

二次評価 (外部評価)			
1) 内容評価	「世界文化遺産暫定一覧表」への記載を当面のゴールとすると、山の何合目あたりまで辿り着いているのか、さらに登るためには、具体的にどういう課題があるのかなど、現在の状況について「わかりやすく」市民に示して頂くことで、登録に対する気運をさらに高められるよう注力して頂きたい。		
2) 指標の設定	活動指標として「世界遺産推進事業に参加した人数」が設定されているが、同事業ひとまとめではなく、それぞれの取り組みに参加した人数（内訳の数）を指標として設定した方が効率的な事業展開に資するのではないだろうか。		
3) 今後の方向性	「世界文化遺産暫定一覧表」への記載に向けて、調査研究・普及啓発事業を着実に進めて頂きたい。		

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	人/年	1,582	14,694	21,189	22,000	24,400	R7	87%
	②								
	③								#DIV/0!
成果指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大により「国宝松本城を世界遺産に」推進実行委員会事業開催に影響があったため、実績が低調であった。

成果指標の増減維持理由

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	20,599	20,172	20,104	26,995	23,950
事業費	千円	5,479	5,808	4,984	8,875	5,830
特定財源	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	受益者負担					
	その他	千円	5,479	5,808	4,984	8,875
一般財源	千円	0	0	0	0	0
人件費合計	千円	15,120	14,364	15,120	18,120	18,120
正規職員	千円	15,120	14,364	15,120	15,120	15,120
人員	人	2.0	1.9	2.0	2.0	2.0
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	0	0	0	3,000	3,000
人員	人	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円					

トータルコストの増減維持理由

令和4年度から会計年度職員1名増員

【事業の評価】

[目的妥当性評価] 1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか		
一次評価	B	なっている
[有効性評価] 2. 事業内容や方向性が想定する成果や期待する効果に結びつくものになっているか		
一次評価	B	想定する成果や効果に結びつくものになっている
[効率性評価] 3. 事業コストや人的コストが適正なものになっているか		
一次評価	B	なっている

【総合評価】

評価	B		
----	---	--	--

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	まつもと文化遺産活用事業		
担当所属	文化財課	連絡先	34-3292
関連所属			

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-2 歴史・文化遺産の継承				
総合計画	分野	7 文化・観光	中事業名	まつもと文化遺産活用事業費	
	基本施策	7-2 歴史・文化遺産の継承			
事業期間	R1 ~	会計種別	一般会計	事業種別	政策的事務
根拠法令要綱					
地域区分		施設種別		予算要求区分	政策的経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 文化財保存活用のアクションプランとして平成30年度に策定した松本市文化財保存活用地域計画に基づき、文化財の活用を図るものです。 従来の指定制度による文化財の保存、活用に加え、未指定文化財を含めた面的な活用を図り、地域住民の文化財を活用した地域づくり、まちづくりにつなげていくものです。 内容 (1) 「まつもと文化遺産」の認定と活用事業の支援 地域の関連文化財群(*)のうち一定の基準を満たしたものを「まつもと文化遺産」に認定し、保存活用団体の活動に対し補助金交付等により支援するもの (2) まつもと文化遺産保存活用協議会(以下、協議会)の開催 平成30年度に設置した協議会において、「まつもと文化遺産」の認定及び文化財の活用策について検討するもの 活動実績(令和4年度実績) (1) 「まつもと文化遺産」2件の新規認定(認定件数7件) (2) まつもと文化遺産保存活用協議会を2回開催し、まつもと文化遺産の認定及び認定団体の活動評価を実施 (3) 「まつもと文化遺産」認定団体の活動に対し補助金を交付 (4) 文化財の情報を、ホームページ、Facebook、Instagramで発信 (5) まつもと文化遺産のロゴマークを作成 (6) 認定候補団体への相談支援 *関連文化財群 松本市歴史文化基本構想の策定に際し、35地区から抽出された指定・未指定の文化財を、歴史的・地域的特性(ストーリー)に基づき、一定のまとまり(群)として捉えたもの	対象指標	① まつもと文化遺産保存活用団体(補助先)
	②	
	活動指標	①
	②	
	③	
	成果指標	① まつもと文化遺産認定件数
	②	
	③	
	効率指標	①
	②	

【今後の方向性】

一次評価(内部評価)		今後の見込み		
今後の実施方向性	継続	前年度の結果	継続	
1 歴史文化基本構想の策定時に、地域主体で文化財調査を行なったことで、調査成果を活用する動きと文化財を地域で保護する機運を醸成することができた。 2 「まつもと文化遺産」の認定により、市民による地域の文化財の保存活用を支援するとともに、地域の文化財を広く周知し、市民が主体となった継続的な保存活用を推進する必要がある。				コスト 削減 維持 増大
成果	上昇			
	維持		○	
	縮小			

二次評価(外部評価)				
1) 内容評価	市民による地域の文化財の保存活用を支援するための仕組みとして、「まつもと文化遺産」の認定制度には大きな可能性があると思われる。認定団体の活動評価、それをベースにした補助金の拡充等を可能にすることで、新規申請を検討する団体も増えてくるのではないだろうか。			
2) 指標の設定	成果指標として「まつもと文化遺産認定件数」が設定されているが、その申請の前提となる地域の関連文化財群の数を考慮すると、もう少し目標値を高くしても良いように思われる。また、認定候補団体への相談支援の数を活動指標として加えても良いかもしれない。			
3) 今後の方向性	「まつもと文化遺産」の認定制度が普及・定着し、地域の文化財の保存活用の推進が図られることを期待する。			

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①	団体	4	5	6	7			
	②								
活動指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
成果指標	①	件	5	5	7	8	10	R7	70%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

成果指標の増減維持理由

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	6,619	7,643	7,912	8,066	8,450
事業費	千円	271	1,295	352	206	590
特定財源	国庫支出金		900	87	34	220
	県支出金					
	地方債					
	受益者負担					
	その他					
	一般財源	千円	271	395	265	172
人件費合計	千円	6,348	6,348	7,560	7,860	7,860
正規職員	千円	6,048	6,048	7,560	7,560	7,560
人員	人	0.8	0.8	1.0	1.0	1.0
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	300	300	0	300	300
人員	人	0.1	0.1		0.1	0.1
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円					

トータルコストの増減維持理由

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか		
一次評価	B	なっている
【有効性評価】 2. 事業内容や方向性が想定する成果や期待する効果に結びつくものになっているか		
一次評価	B	想定する成果や効果に結びつくものになっている
【効率性評価】 3. 事業コストや人的コストが適正なものになっているか		
一次評価	B	なっている

【総合評価】

評価	B		
----	---	--	--

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	堀浄化対策事業費		
担当所属	文化財課	連絡先	31-3369
関連所属	松本城管理課		

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-2 歴史・文化遺産の継承				
総合計画	分野	7 文化・観光	中事業名	堀浄化対策事業	
	基本施策	7-2 歴史・文化遺産の継承			
事業期間	H30 ~	会計種別	松本城特別会計	事業種別	政策的事務
根拠法令要綱	文化財保護法				
地域区分		施設種別		予算要求区分	政策的経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 歴史的な景観及び快適な公園環境・見学環境の維持向上を図るため、松本城の内堀、外堀、総堀の浚渫（堆積物の除去）と水質浄化を実施するもの。 内容 1 令和5年度からの浚渫工事着手に向け、工事に係る実施設計を実施 2 浚渫後の水量・水質確保の方法を検討するため、堀総合調査を追加実施 3 浚渫工事実施に向けた文化庁との協議 4 水質の悪化が激しくみられる内堀、外堀の5か所（計2,250㎡）に、酸化マグネシウム剤（45袋：1袋/20kg）を散布	対象指標	①	
		②	
	活動指標	①	浚渫工事済面積
		②	
		③	
	成果指標	①	
		②	
		③	
	効率指標	①	
		②	

【今後の方向性】

一次評価（内部評価）			
今後の実施方向性	拡大	前年度の結果	継続
・令和5年度から令和11年度にかけて浚渫工事を実施し、まず、水源上流（内堀東側）から着手する。 ・堀総合調査の結果に基づき、南・西外堀復元も見据え、浚渫後の水量・水質維持のための手法について、文化庁や有識者と協議する。 ・浚渫工事の実施に伴い、薬剤散布は中止する。	今後の見込み		
	コスト		
	成果	上昇	維持
	維持		○
	縮小		

二次評価（外部評価）			
1) 内容評価 世界文化遺産を目指す上でも、松本城の堀の堆積物除去及び水質浄化は、大きな課題であると思われる。中長期にわたる工事を進める際、市民はもちろん、急速に増えつつある観光客への配慮を如何にするか、他課と連携しながら具体策を検討して頂きたい。 2) 指標の設定 活動指標として「浚渫工事済面積」が設定されているのは、適切であると思われる。R5年度から実際の工事に着手することなので、まずは浚渫に関する実施計画に基づいて、活動指標の達成に注力して欲しい。 3) 今後の方向性 文化庁や有識者と協議を重ねながら、同事業を着実に前進させて頂きたい。			

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	面積/㎡				2,262	19,869	R11	0%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
成果指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

成果指標の増減維持理由

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	12,248	50,659	7,976	33,647	144,854
事業費	千円	7,712	46,123	2,684	27,755	141,530
特定財源	国庫支出金					31,330
	県支出金					500
	地方債					
	受益者負担					
	その他	千円	7,712	46,123	2,684	27,755
一般財源	千円	0	0	0	0	0
人件費合計	千円	4,536	4,536	5,292	5,892	3,324
正規職員	千円	4,536	4,536	5,292	5,292	3,024
人員	人	0.6	0.6	0.7	0.7	0.4
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	0	0	0	600	300
人員	人				0.2	0.1
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円					

トータルコストの増減維持理由

【事業の評価】

[目的妥当性評価] 1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか		
一次評価	B	なっている
[有効性評価] 2. 事業内容や方向性が想定する成果や期待する効果に結びつくものになっているか		
一次評価	B	想定する成果や効果に結びつくものになっている
[効率性評価] 3. 事業コストや人的コストが適正なものになっているか		
一次評価	B	なっている

【総合評価】

評価	B	
----	---	--

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	博物館事業		
担当所属	博物館	連絡先	32-0133
関連所属			

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-2 歴史・文化遺産の継承				
総合計画	分野	7 文化・観光	中事業名	博物館事業費	
	基本施策	7-2 歴史・文化遺産の継承			
事業期間	～	会計種別	一般会計	事業種別	その他
根拠法令要綱					
地域区分	-	施設種別	文化・コミュニティ施設	予算要求区分	経常・政策的経費

【事業概要・指標】

事業概要	対象指標
趣旨・目的	①
(1) 松本市立博物館本館と分館15館で、各施設の特徴を生かした資料の収集・保管、調査研究、展示・講座等を実施し、歴史・文化資産に対する市民の理解を深めること。	②
(2) 平成12年度に策定した松本まるごと博物館構想に基づき、博物館が市民協働や博物館連携事業を実施することにより、学びを通じた「ひとづくり」「まちづくり」を推進する。	活動指標
内容	① 本館の特別展、企画展開催に伴う学芸員が主となる事業の実施数
	② 本館資料登録率
	③ 累計市民学芸員養成数
1 博物館資料の収集・保管業務	成果指標
(1) 収蔵資料・図書資料整理・博物館資料管理システムへの登録(全館)	①
(2) 保存処理業務 女乗り物等	②
2 常設展、特別展・企画展の実施	③
(1) 市立博物館(本館)は建替えのため休館中	効率指標
(2) 分館 「旧開智耐震工事速報展(入替えながら実施)」(旧司祭館)	①
「時の記憶：本田親蔵コレクション」(時計博物館)	②
3 講座・講演会の実施	③
「夏の昆虫観察会 幸せの青いハチを探そう！」(山と自然博物館)	
「短歌講座(年4回開催)」(空穂記念館)等	
4 各種印刷物の刊行	
博物館ニュース「あなたと博物館」各5,000部(年4回発行)等	
5 第3回博物館まつり	
(1) 内容 市民学芸員が実行委員会を組織し研究発表や講座等を開催	
(2) 実施日 令和4年9月24日	
6 市民学芸員要請講座事業	
(1) 実施期間 令和4年6月～令和5年2月	
7 市民学芸員のワークショップ及び講座の実施	
修了生がグループで、七夕、あめ市、の講座や研究を実施	

【今後の方向性】

一次評価(内部評価)		今後の見込み			
今後の実施方向性	継続	前年度の結果	継続	コスト	
<ul style="list-style-type: none"> 資料整理については、全館継続的に事業を進めていく。 特別展・企画展は、市立博物館(本館)で開催。分館は資料入替えによる常設展示の充実を行う。 市民学芸員の養成は今後も継続的に進めていく。 新博物館の1階活用について市民学芸員と協力しながら進めていく。 市民が博物館の学びから松本の魅力に気づき、その魅力を更に高めようとする事で街づくりに寄与する。 			削減	維持	増大
	成果	上昇			○
		維持			
	縮小				

二次評価(外部評価)					
1) 内容評価					
新博物館(本館)の開館に寄せられる市民の期待は大きいと思われる。市民学芸員の養成講座、市民学芸員のワークショップの開催など、市民との協働を進める仕組みも整えられている。新博物館(本館)の開館に合わせて、博物館全体のプレゼンスをより一層高めて頂きたい。					
2) 指標の設定					
活動指標のひとつに「本館の特別展、企画展開催に伴う学芸員が主となる事業の実施数」があるが、R5年度は10月からの半年間で年間の目標値(16回)を達成するという事であろうか。目標値の設定に関して、再度、確認して頂きたい。					
3) 今後の方向性					
歴史・文化資産は、重要な観光資源にもなりうるものである。市民はもちろん、国内外の観光客の需要を広く取り込めるように、他課との連携を進めて頂きたい。					

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	事業実施数(回)		0	0	16	16	毎年	0%
	②	登録点数(点)		60,000	63,000	80,000	120,000	R20	53%
	③	修了生累計(人)		85	98	108	100	R15	98%
成果指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

・新博物館が令和5年度10月に開館予定のため事業実施数は0%となっている。
 ・資料整理を順調に行っており、登録点数が確実に伸びている。
 ・市民学芸員養成講座において、年間10名の養成を目的としているが、令和4年度は13名の修了生があり、受講希望者は増加している。

成果指標の増減維持理由

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算	
トータルコスト	千円	74,888	67,148	108,996	140,836	419,698	
事業費	千円	32,540	20,200	43,900	37,930	333,670	
特定財源	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	受益者負担	千円	720	380	590	830	1,810
	その他	千円					
	一般財源	千円	31,820	19,820	43,310	37,100	331,860
人件費合計	千円	42,348	46,948	65,096	102,906	86,028	
正規職員	千円	35,532	35,532	52,920	90,720	68,040	
人員	人	4.7	4.7	7.0	12.0	9.0	
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	0	0	0	0	3,000	
人員	人	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	
会計年度(3類)職員	千円	1,416	1,416	1,416	1,416	4,248	
その他職員	千円	5,400	10,000	10,760	10,770	10,740	

トータルコストの増減維持理由

令和3、4年度は休館であり、事業の開催数が減少したが、令和5年度はリニューアルオープンするため支出、歳入ともに増となった。

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか		
一次評価	B	なっている
【有効性評価】 2. 事業内容や方向性が想定する成果や期待する効果に結びつくものになっているか		
一次評価	A	想定以上の成果や効果に結びつくものになっている
【効率性評価】 3. 事業コストや人的コストが適正なものになっているか		
一次評価	B	なっている

【総合評価】

評価	B		
----	---	--	--

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	旧開智学校校舎保存活用事業		
担当所属	博物館	連絡先	32-5725
関連所属			

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-2 歴史・文化遺産の継承				
総合計画	分野	7 文化・観光	中事業名	旧開智学校校舎保存活用事業費	
	基本施策	7-2 歴史・文化遺産の継承			
事業期間	H28 ~	会計種別	一般会計	事業種別	政策的事務
根拠法令要綱					
地域区分		施設種別		予算要求区分	政策的経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 国宝旧開智学校校舎の保存と、来館者の安全性を高めるため、耐震対策工事・防災設備工事を行うもの。また、保存活用計画を定め、工事終了後の国宝旧開智学校校舎の活用内容を検討する。 内容 (1) 保存活用計画策定 国宝旧開智学校校舎（国宝建造物及び国宝附資料63点）の健全な保存と活用を図るために保存活用計画を策定する。 (2) 耐震対策工事 大地震時に耐震性能が不足するという診断結果となった国宝旧開智学校校舎について、耐震補強工事を実施する。 (3) 防災設備工事 老朽化した防災設備の改修工事等を実施する。	対象指標	①		
			②	
	活動指標	①	活用計画策定及び工事進捗率	
			②	
			③	
	成果指標	①		
			②	
			③	
	効率指標	①		
			②	

【今後の方向性】

一次評価（内部評価）			
今後の実施方向性	継続	前年度の結果	継続
・耐震対策工事・防災設備工事を、令和6年秋頃完了を目指して継続実施する。 ・旧開智学校校舎のより良い保存活用について周辺住民や関係課と調整を行いながら、保存活用計画に示す事業（ユニバーサル化等）の実施を進める。			今後の見込み コスト 削減 維持 増大 成果 上昇 維持 縮小

二次評価（外部評価）			
1) 内容評価			
後世にわたって国宝旧開智学校校舎を保存するためにも、耐震対策工事、防災設備工事は着実に前進させて頂きたい。R4年度に策定した『保存活用計画』を実現するためにも、事業の具体化が急務であると考えている。			
2) 指標の設定			
活動指標として「活用計画策定及び工事進捗率」が設定されているが、前者と後者は2つに区分して表記した方がより適切であるように感じる。			
3) 今後の方向性			
松本城と並び、国宝旧開智学校校舎は、重要な観光資源のひとつである。市民はもちろん、国内外の観光客の需要を広く取り込めるように、外部協力者、他課と連携しながら、同施設の価値・魅力の発信を進めて頂きたい。			

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	%	30	40	50	65	100	R6	50%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
成果指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

- (1) 保存活用計画：防災計画を保存活用計画に先行して策定（R 2）。保存活用計画の策定（R 4）。
 (2) 耐震対策工事：耐震基礎診断の実施（H 2 8～2 9）。耐震対策工事実施設計（R 2）。耐震対策工事着工（R 3）。
 (3) 防災設備工事：防災設備工事実施設計及び工事着工（R 4）。

成果指標の増減維持理由

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	14,770	34,536	54,135	146,379	128,640
事業費	千円	14,014	30,000	46,575	138,819	121,080
特定財源	国庫支出金		15,000	22,047	70,578	63,550
	県支出金		900	1,322	4,143	3,620
	地方債					
	受益者負担					
	その他					
	一般財源	千円	14,014	14,100	23,206	64,098
人件費合計	千円	756	4,536	7,560	7,560	7,560
正規職員	千円	756	4,536	7,560	7,560	7,560
人員	人	0.1	0.6	1.0	1.0	1.0
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	0	0	0	0	0
人員	人					
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円					

トータルコストの増減維持理由

R 4より防災設備事業が開始となり、耐震対策事業においても補強工事が本格化（補強材設置等）したためR 4以降のコストが増加している。

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか		
一次評価	B	なっている
【有効性評価】 2. 事業内容や方向性が想定する成果や期待する効果に結びつくものになっているか		
一次評価	B	想定する成果や効果に結びつくものになっている
【効率性評価】 3. 事業コストや人的コストが適正なものになっているか		
一次評価	B	なっている

【総合評価】

評価	B		
----	---	--	--

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	観光宣伝事業		
担当所属	観光プロモーション課	連絡先	34-8307
関連所属			

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-4 変化する時代の観光戦略				
総合計画	分野	7 文化・観光	予算事業	中事業名	
	基本施策	7-4 変化する時代の観光戦略			
事業期間	~	会計種別	一般会計	事業種別	政策的事務
根拠法令要綱					
地域区分		施設種別		予算要求区分	経常・政策的経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 松本市の観光ビジョンの具現化を図りながら、本市の特色を生かして、国内への積極的なプロモーション活動を展開するとともに、広域観光ルートの整備促進、受入態勢の整備、各種イベントの実施、松本シネマ認定作品との連携等により誘客促進を図るもの。 内容 1 広告宣伝事業 (1) パンフレット等の作成 (2) 高速バスラッピング広告 2 就航先都市誘客促進事業 (1) 札幌(新千歳・丘珠)・福岡・大阪・神戸営業活動 (2) 松本観光コンベンション協会福岡営業所の運営 (3) 旅行代理店への助成制度 (4) 就航先のメディアを活用した利用促進PR 3 受入体制整備事業 観光案内所運営事業、松本まちなか観光ボランティア運営事業 4 負担金 (1) 国宝松本城太鼓まつり (2) ツール・ド・美ヶ原高原自転車レース (3) 夏まつり松本ぼんぼん (4) 北陸・飛騨・信州3つ星街道協議会 (5) 美ヶ原高原直行バス運行事業 (6) 福寿草まつり (7) 国宝城郭都市観光協議会	対象指標	①		
			②	
		活動指標	①	まつもと空港定期便利用者数
			②	観光案内所案内人数
			③	
		成果指標	①	松本市主要観光地入込者数
			②	
			③	
		効率指標	①	
			②	

【今後の方向性】

一次評価 (内部評価)		今後の見込み		
今後の実施方向性	継続	前年度の結果	継続	コスト
・新型コロナウイルス感染症拡大防止により、イベントが中止・縮小になることが3年間続いてきたが、それも解消の方向で国全体が動いている。ポストコロナに向けたプロモーションの強化が必要である。 ・市内で実施されるイベントを活用するとともに周辺自治体等と連携し、大都市圏及び就航先都市等からの誘客促進を図る。 ・観光入込の多い夏季は周遊促進による観光消費の拡大、冬季は宿泊促進による閑散期の底上げを柱に各種イベント、キャンペーン、松本シネマ認定作品等と連携した観光プロモーションを展開する。				削減 維持 増大
				成果
				上昇
				維持
				縮小

二次評価 (外部評価)				
1) 内容評価	新型コロナが5類に変更となったことを契機に、国内旅行に対する需要が急速に回復している。各都市において、そうした需要を取り込むべく積極的な観光プロモーションが展開されている。観光関連団体・事業者と連携しながら、これまでとは一味違う観光プロモーションのあり方を模索して頂きたい。			
2) 指標の設定	成果指標として「松本市主要観光地入込者数」がひとまとめで設定されているが、これに加えて、例えば●●別に人数を把握するなど、もう少し費用対効果を意識できるような成果指標も設定した方が良いのではないだろうか。			
3) 今後の方向性	最近では、マツモト建築芸術祭、まちなかアートプロジェクト、新博物館(本館)の開館など、観光資源として訴求すべき新たなポイントが増えてきている。通年にわたって安定的な誘客を実現できるよう、多面的なプロモーションを展開して頂きたい。			

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	人	72,975	125,625	200,000	210,000	144,498	R7	138%
	②	人	75,557	91,341	140,312	200,000	201,434	R5	70%
	③								#DIV/0!
成果指標	①	人	2,546,241	2,628,196	3,771,473	4,980,000	5,470,000	R7	69%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

成果指標の増減維持理由

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	173,194	121,638	176,820	103,702	101,110
事業費	千円	159,442	107,886	163,068	89,950	88,870
特定財源	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	受益者負担	千円				
	その他	千円				
	一般財源	千円	159,442	107,886	163,068	89,950
人件費合計	千円	13,752	13,752	13,752	13,752	12,240
正規職員	千円	12,852	12,852	12,852	12,852	11,340
人員	人	1.7	1.7	1.7	1.7	1.5
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	900	900	900	900	900
人員	人	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円					

トータルコストの増減維持理由

【事業の評価】

1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか	
一次評価	B になっている
1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか	
一次評価	B 想定する成果や効果に結びつくものになっている
1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか	
一次評価	B になっている

【総合評価】

評価	B
----	---

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	国際観光都市推進事業		
担当所属	観光プロモーション課	連絡先	34-8307
関連所属			

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-4 変化する時代の観光戦略				
総合計画	分野	7 文化・観光	中事業名	国際観光都市推進事業費	
	基本施策	7-4 変化する時代の観光戦略			
事業期間	~	会計種別	一般会計	事業種別	政策的事務
根拠法令要綱					
地域区分		施設種別		予算要求区分	経常・政策的経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 本市を訪れる外国人旅行者を増やすため、プロモーションの実施および団体への負担金支出を行うもの。また、本市を訪れた外国人旅行者の消費・滞在を伸ばすため、受入環境の整備を行うもの 内容 1 海外観光誘客宣伝事業 (1) 旅行博への出展(中止) →主催者側の都合で来年度に延期となった (2) 広告宣伝 (3) 旅行代理店等への営業活動 (4) 外国語パンフレット作成 2 外国人観光客受入環境整備事業 (1) 外国人旅行者体験拡充事業 (2) 公衆無線LAN環境整備事業 3 団体への負担金支出 (1) 日本アルプス観光連盟 (2) 国際観光振興機構 (3) 長野県国際観光推進協議会	対象指標	①	
		②	
	活動指標	①	パンフレット対応言語数
		②	公衆無線LAN管理運用数
		③	台湾向け広告表示回数
	成果指標	①	外国人観光客宿泊者数
		②	
		③	
	効率指標	①	
		②	

【今後の方向性】

一次評価(内部評価)		今後の実施方向性		拡大	前年度の結果	拡大	今後の見込み				
・近年、インバウンド市場が拡大し、松本市においても外国人宿泊者数はコロナ禍前は5年間で174.2%と大きく伸びたが、令和2年度以降、渡航制限がかかったため大きく落ち込んでいる。 ・渡航制限が解除されつつあり、今後外国人旅行者の来訪が急激に回復することが見込まれる。松本市の認知度をさらに向上させ、次の旅行先へ選ばれるよう、海外プロモーションの継続が必要		今後の実施方向性		拡大	前年度の結果	拡大	コスト				
							削減	維持	増大		
							成果	上昇			○
								維持			
			縮小								

二次評価(外部評価)		1) 内容評価		2) 指標の設定		3) 今後の方向性				
新型コロナウイルスが5類に変更となったことを契機に、インバウンド市場が急速に拡大してきている。こうした状況下において、海外プロモーションの展開は非常に重要であるが、限られた予算の中においては、各プロモーションに対する費用対効果を把握する努力も必要であると思われる。		活動指標の「パンフレット対応言語数」は、ここ数年、同じ数のままであるが、今後、増やす(増える)計画はあるのだろうか。そうした計画がないのであれば、活動指標に残しておく意味があるのか疑問である。		外国人観光客受入環境整備事業として、2つの事業が展開されているが、外国人旅行者の消費・滞在を伸ばすためには、その他にも整備しなければならないポイントが多々あるように思われる。観光関連団体・事業者と連携しながら、まずは、そうしたポイントの洗い出しを進めて頂きたい。						

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	① 言語		8	8	8	8	10	R7	80%
	② 箇所		15	15	17	17	17	R7	100%
	③ imp				4,600,000	4,600,000	5,000,000	R7	92%
成果指標	① 人		19,668	4,875	27,000	150,000	207,000	R7	13%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

成果指標の増減維持理由

コロナウイルス感染症の影響で渡航制限があったため

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	29,958	11,246	29,107	25,901	28,652
事業費	千円	24,666	5,954	23,815	20,609	23,360
特定財源	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	受益者負担					
	その他					
	一般財源	千円	24,666	5,954	23,815	20,609
人件費合計	千円	5,292	5,292	5,292	5,292	5,292
正規職員	千円	5,292	5,292	5,292	5,292	5,292
人員	人	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	0	0	0	0	0
人員	人					
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円					

トータルコストの増減維持理由

【事業の評価】

1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか		
一次評価	B	なっている
1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか		
一次評価	B	想定する成果や効果に結びつくものになっている
1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか		
一次評価	B	なっている

【総合評価】

評価	B		
----	---	--	--

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	観光戦略推進事業		
担当所属	観光プロモーション課	連絡先	34-8307
関連所属			

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-4 変化する時代の観光戦略				
総合計画	分野	7 文化・観光	予算事業	中事業名	
	基本施策	7-4 変化する時代の観光戦略			
事業期間	~	会計種別	一般会計	事業種別	政策的事務
根拠法令要綱					
地域区分		施設種別		予算要求区分	経常経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 観光客誘致促進や滞在型観光を推進するため、アクションプランの実施や観光大使を活用したプロモーションなど、効果的な観光施策の展開するもの。 また、公式観光情報ポータルサイト「新まつもと物語」による情報発信強化により、誘客促進を図るもの。 内容 1 松本市観光大使の活動支援 「松本市が有する観光資源を広く周知し、誘客促進を図る」という使命趣旨に基づく活動を支援するもの。(PR用品の購入及び名刺印刷代) (1) 赤司 龍之祐 (RKB毎日放送ラジオ局プロデューサー) (2) FDA11号機 (飛行機) (3) 松本山雅FC (プロサッカーチーム) (4) 秋本 奈緒美 (女優) (5) 鈴木 ともこ (マンガ家、エッセイスト) 2 公式観光ホームページ情報発信事業 本市を訪れる観光客にとって必要な情報を、民間や行政の区別なく総合的に幅広く提供するとともに、タイムリーな情報を継続的かつ効果的に発信するもの。また、外国人旅行者向けに8カ国語(英語、韓国語、中文繁体字、中文簡体字、ロシア語、フランス語、ドイツ語、タイ語)に対応している。	対象指標			
	①			
	②			
	活動指標			
	①	新まつもと物語PV数		
	②			
	③			
	成果指標			
	①	松本市主要観光地入込者数		
	②			
③				
効率指標				
①				
②				

【今後の方向性】

一次評価 (内部評価)			
今後の実施方向性	継続	前年度の結果	継続
・観光データの調査・分析結果に基づいた検討を行い、次期ビジョンを策定する。 ・個人旅行の需要拡大に伴い、SNS等を活用した情報発信。観光DXの推進。 ・各観光大使の活動を通して、それぞれの分野を生かした松本の魅力を発信する。 ・公式観光情報サイト「新まつもと物語」を活用し、より魅力のある情報発信を行う。			今後の見込み
			コスト
	成果	上昇	維持
	維持		○
	縮小		

二次評価 (外部評価)			
1) 内容評価	新型コロナが5類に変更となったことを契機に、観光大使を活用したプロモーション、公式観光情報ポータルサイトによる情報発信の強化、いずれもその重要性は増してきていると思われる。投入コストに見合う効果が得られるよう、各事業の実施において創意工夫をして頂きたい。		
2) 指標の設定	一次評価にも記載されている通り、個人旅行の需要拡大に伴い、SNS等を活用した情報発信も重要になってきている。また、現在、活動指標として「新まつもと物語PV数」のみが設定されているが、SNS等の活用度合いを測定できる指標を加えることを検討しても良いのではないだろうか。		
3) 今後の方向性	まずは観光データの調査・分析を丁寧に行い、新たな時代に即した「観光ビジョン」を策定し、上記で示されている事業にとどまらず、具体的な新事業への展開を検討して頂きたい。		

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①	人	6	6	6	5			
	②								
活動指標	①	pv	1,870,849	1,770,324	2,739,143	2,800,000	3,000,000	R7	91%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
成果指標	①	人	2,546,241	2,628,196	3,771,473	4,980,000	5,470,000	R7	69%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

成果指標の増減維持理由

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	19,149	10,731	122,535	260,132	34,670
事業費	千円	13,257	4,839	116,643	254,240	26,510
特定財源	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	受益者負担					
	その他					
	一般財源	千円	13,257	4,839	116,643	254,240
人件費合計	千円	5,892	5,892	5,892	5,892	8,160
正規職員	千円	5,292	5,292	5,292	5,292	7,560
人員	人	0.7	0.7	0.7	0.7	1.0
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	600	600	600	600	600
人員	人	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円					

トータルコストの増減維持理由

令和3年度は新型コロナウイルス感染症に消費の落ち込み対策として、観光消費促進事業を実施した(112,453千円)

【事業の評価】

1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか	
一次評価	B になっている
1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか	
一次評価	B 想定する成果や効果に結びつくものになっている
1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか	
一次評価	B になっている

【総合評価】

評価	B
----	---

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	人	0	0	571	600	375	R7	152%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
成果指標	①	人	2,546,241	2,628,196	3,771,473	4,980,000	5,470,000	R7	69%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

成果指標の増減維持理由

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	0	0	2,821	27,376	24,716
事業費	千円	0	0	2,065	26,620	23,960
特定財源	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	受益者負担	千円				
	その他	千円				
	一般財源	千円	0	0	2,065	26,620
人件費合計	千円	0	0	756	756	756
正規職員	千円	0	0	756	756	756
人員	人			0.1	0.1	0.1
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	0	0	0	0	0
人員	人					
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円					

トータルコストの増減維持理由

【事業の評価】

1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか		
一次評価	B	なっている
1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか		
一次評価	B	想定する成果や効果に結びつくものになっている
1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか		
一次評価	B	なっている

【総合評価】

評価	B		
----	---	--	--

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	観光データ調査分析事業		
担当所属	観光プロモーション課	連絡先	34-8307
関連所属			

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-4 変化する時代の観光戦略				
総合計画	分野	7 文化・観光	中事業名	観光データ調査分析事業費	
	基本施策	7-4 変化する時代の観光戦略			
事業期間	R4 ~ R9	会計種別	一般会計	事業種別	政策的事務
根拠法令要綱					
地域区分		施設種別		予算要求区分	政策的経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 観光プロモーションに必要なデータを収集・分析し、PDCAサイクルの中で効率的かつ無駄のない精度の高いプロモーションを実施する。R5は実際の来訪者に対する動向調査を実施するもの 内容 観光動向調査として、街頭での動向調査を実施し認知度や満足度等のデータを取得・分析する。	対象指標	
	①	
	②	
	活動指標	
	①	国内観光客サンプル数
	②	外国人観光客サンプル数
	③	
	成果指標	
	①	松本市主要観光地入込客数
	②	
	③	
	効率指標	
	①	
②		

【今後の方向性】

一次評価 (内部評価)					
今後の実施方向性	継続	前年度の結果	今後の見込み		
コロナ後の観光客の変化を追うため、街頭で実際に松本に来ている国内外の観光客に聞き取り調査を行っていく。 インバウンドが復活していないため、R5年度から外国人の動向調査を本格的にスタートする。毎年街頭での調査を実施（コロナ後の観光は流動的になることが予想されるため）			コスト		
			削減	維持	増大
	成果	上昇			
		維持		○	
	縮小				

二次評価 (外部評価)			
1) 内容評価 観光動向調査として「街頭での聞き取り調査」を実施しているとのことであるが、こうした調査は調査者の技量で得られる情報が大きく変化すると思われる。調査の実施に際して、調査者に対する事前研修等を十分に行って頂きたい。 2) 指標の設定 活動指標として「国内観光客サンプル数」、「外国人観光客サンプル数」が設定されているが、同事業のスタート当初から、いずれも目標値を大きく上回っている状況である。目標値の水準の妥当性を再検討すべきではないか。 3) 今後の方向性 同事業で得られた定性的なデータを十分に分析し、これからの観光プロモーションに着実に反映させていくことを期待する。			

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	人			1,323	800	800	R5	165%
	②				1,591	800	800	R5	199%
	③								#DIV/0!
成果指標	①	人	2,546,241	2,628,196	3,771,473	4,980,000	5,470,000	R7	69%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

成果指標の増減維持理由

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	0	0	0	8,990	7,752
事業費	千円	0	0	0	7,478	6,240
特定財源	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	受益者負担					
	その他					
	一般財源	千円	0	0	0	7,478
人件費合計	千円	0	0	0	1,512	1,512
正規職員	千円	0	0	0	1,512	1,512
人員	人				0.2	0.2
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	0	0	0	0	0
人員	人				0.0	0.0
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円					

トータルコストの増減維持理由

【事業の評価】

1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか	
一次評価	A 市の目指す姿に大きく貢献する事業
1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか	
一次評価	B 想定する成果や効果に結びつくものになっている
1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか	
一次評価	B なっている

【総合評価】

評価	B
----	---

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	光と氷の城下町フェスティバル事業		
担当所属	観光プロモーション課	連絡先	34-8307
関連所属			

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-4 変化する時代の観光戦略				
総合計画	分野	7 文化・観光	中事業名	光と氷の城下町フェスティバル事業	
	基本施策	7-4 変化する時代の観光戦略			
事業期間	H7 ~	会計種別	一般会計	事業種別	政策的事務
根拠法令要綱					
地域区分		施設種別		予算要求区分	政策的経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 冬の魅力を訴求し、冬季の誘客促進を図るため、イルミネーションを中心に、氷彫フェスティバルをはじめ、各イベントと連動した総合的なプロモーションを実施 内容 (1)イルミネーション 城をメインとして、駅から城の導線や場内へつながりのある演出 (2)国宝松本城氷彫フェスティバル 氷彫コンクールとして、氷彫家による像の制作競技（展示）の実施 (3)光と氷の城下町 イベントと連動した冬の賑わい創出繋がるコンテンツの実施（ウィンターマーケット、足湯） (4)広告宣伝事業	対象指標	①	
		②	
	活動指標	①	イベント来場者数
		②	
		③	
	成果指標	①	主要観光地入込客数
		②	
		③	
	効率指標	①	
		②	

【今後の方向性】

一次評価（内部評価）		今後の見込み			
今後の実施方向性	継続	前年度の結果	継続		
・冬の観光客減少は引き続きの課題であるため、冬の誘客コンテンツは来年度以降も実施していく。 ・R5以降は城下町松本フェスタ推進事業として、官民連携による組織で通年にわたりイベントの開催とプロモーションを実施する。夏の新規イベントも検討していく。			コスト		
			削減	維持	増大
	成果	上昇			
		維持		○	
		縮小			

二次評価（外部評価）				
1) 内容評価	冬季の誘客コンテンツを充実させることは、重要な課題のひとつである。マツモト建築芸術祭など、ここ数年、冬季にも新たなイベントの開催などが増えつつあり、今後、官民連携でこうした取り組みを定着させていくことが肝要であると思われる。			
2) 指標の設定	活動指標として「イベント来場者数」が設定されているが、対象となるイベントの数が増えれば、自ずと来場者数は増えることとなる。当該指標の目標値については、適宜、見直しを行うことが必要であると思われる。			
3) 今後の方向性	繁忙期以外でも安定的な入込客数を確保できるような取り組みに注力して頂きたい。			

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	人	主要イベント中止	137,950	134,713	120,000	120,000	R7	112%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
成果指標	①	人	2,546,241	2,628,196	3,771,473	4,980,000	5,470,000	R7	69%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

成果指標の増減維持理由

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	28,470	16,694	80,150	82,150	83,680
事業費	千円	20,310	8,534	71,990	73,990	75,520
特定財源	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	受益者負担					
	その他					
	一般財源	千円	20,310	8,534	71,990	73,990
人件費合計	千円	8,160	8,160	8,160	8,160	8,160
正規職員	千円	7,560	7,560	7,560	7,560	7,560
人員	人	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	600	600	600	600	600
人員	人	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円					

トータルコストの増減維持理由

【事業の評価】

1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか	
一次評価	B になっている
1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか	
一次評価	B 想定する成果や効果に結びつくものになっている
1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか	
一次評価	B になっている

【総合評価】

評価	B
----	---

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	プロスポーツ振興事業		
担当所属	スポーツ推進課	連絡先	45-9511
関連所属			

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-3 スポーツを楽しむ環境の充実				
総合計画	分野	7 文化・観光	中事業名	プロスポーツ振興事業	
	基本施策	7-3 スポーツを楽しむ環境の充実			
事業期間	H27 ~ R9	会計種別	一般会計	事業種別	政策的事務
根拠法令要綱					
地域区分	-	施設種別	-	予算要求区分	経常・政策的経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 プロスポーツの集客力・求心力を活かし、「みるスポーツ」等による地域振興や、プロスポーツチームや各種競技団体による専門的な技術指導等の提供により、競技スポーツ人口の拡大に繋げるなど、プロスポーツを活用することで地域活性化の推進、スポーツ振興を図るもの 内容 1 松本山雅FC (1) ホームタウンデーの実施 ホームタウン4市3町3村合同により市の施策や観光・特産品をPR (2) 松本市・鹿児島市文化・観光交流都市デーの実施 鹿児島市と連携して市の施策や観光・特産品をPR (3) 中学部活動出前コーチングを山辺中、清水中、信明中、高綱中、波田中にて実施 56人参加 2 信濃グランセローズ (1) 中学部活動出前コーチングを開成中、鎌田中、旭町中、筑摩野中、明善中にて実施 48人参加 (2) 松本市野球場の優先使用 3 信州ブレイブウォリアーズ (1) 中学部活動出前コーチングを丸ノ内中、鎌田中、松島中、開成中、菅野中、鉢盛中にて実施 200人参加 (2) 松本市総合体育館の優先使用 4 VC長野トライデンツ (1) 中学部活動出前コーチングを会田中、梓川中、高綱中にて実施 55人参加 (2) ホームタウンパートナー協定を締結(令和3年10月15日)	対象指標	①		
			②	
		活動指標	①	松本山雅FCホームタウンデー松本市ブース来場者数(人)
			②	
			③	
		成果指標	①	中学部活動出前コーチング事業アンケート結果平均値(5段階評価)
			②	
			③	
		効率指標	①	
			②	

【今後の方向性】

一次評価(内部評価)		今後の実施方向性		継続	前年度の結果	継続	今後の見込み		
成果	ホームゲーム等で市の施策や観光・特産品のPRを行うことで、効率的に多くの方にPR等を行うことが出来る。プロスポーツチームや各種競技団体による専門的な技術指導等の提供により、競技スポーツ人口の拡大に繋がる。 新型コロナウイルス感染症拡大防止により事業の縮小等があったが、関係団体と調整して実施することができた。	上昇					コスト		
		維持					削減	維持	増大
		縮小							

二次評価(外部評価)		1) 内容評価		同事業の趣旨・目的のひとつに、競技スポーツ人口の拡大というキーワードがあるが、これを実現するためには、「中学部活動出前コーチング」はもちろん、それ以前の年齢層をターゲットとした取り組みも検討する必要があるのではないか。		2) 指標の設定		活動指標として「松本山雅FCホームタウンデー松本市ブース来場者数」が設定されているが、新型コロナが5類に変更という局面において、ここ数年、未達であった目標値の達成を実現して欲しい。		3) 今後の方向性		地域活性化の推進・スポーツ振興においてプロスポーツチームが果たしうる可能性は非常に大きいと思われる。関係団体と調整しながら、より大きな効果が得られる取り組みとなるよう注力して頂きたい。	
------------	--	---------	--	---	--	----------	--	--	--	-----------	--	--	--

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	人	1,000	1,000	1,000	2,000	2,000	R9	50%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
成果指標	①	%		4	4	4	4	R6	88%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

ホームゲーム等で市の施策や観光・特産品のPRを行うことで、多くのホーム及びアウェイサポーターに効率的にPR等を行うことができる。
 ※R 2、R 3、R 4年度はコロナによる入場制限あり。

成果指標の増減維持理由

中学校をプロスポーツ選手が訪問し、生徒がプロスポーツ選手と直接触れ合うことで、プロスポーツを身近に感じ、実際に観戦する、競技を始めるきっかけ等を創出できる。

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	16,008	12,278	5,436	4,670	5,776
事業費	千円	9,960	6,230	900	890	940
特定財源	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	受益者負担					
	その他					
	一般財源	千円	9,960	6,230	900	890
人件費合計	千円	6,048	6,048	4,536	3,780	4,836
正規職員	千円	6,048	6,048	4,536	3,780	4,536
人員	人	0.8	0.8	0.6	0.5	0.6
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	0	0	0	0	300
人員	人					0.1
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円					

トータルコストの増減維持理由

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか		
一次評価	B	なっている
【有効性評価】 2. 事業内容や方向性が想定する成果や期待する効果に結びつくものになっているか		
一次評価	B	想定する成果や効果に結びつくものになっている
【効率性評価】 3. 事業コストや人的コストが適正なものになっているか		
一次評価	B	なっている

【総合評価】

評価	B		
----	---	--	--

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	女子野球タウン推進事業		
担当所属	スポーツ推進課	連絡先	45-9511
関連所属			

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-3 スポーツを楽しむ環境の充実				
総合計画	分野	7 文化・観光	中事業名	女子野球タウン推進事業費	
	基本施策	7-3 スポーツを楽しむ環境の充実			
事業期間	R3 ~ R7	会計種別	一般会計	事業種別	
根拠法令要綱					
地域区分		施設種別		予算要求区分	政策的経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 女子野球タウン認定を契機に、本市、全日本女子野球連盟、スポーツ団体等が連携、協力しながら女子野球の普及・振興をはじめ、女子野球を活用した女性スポーツの推進及びジェンダー平等の実現を目指し、地域活性化を図るもの 内容 1 女子野球タウンフォーラム開催 (1) 開催日 令和4年8月9日(火) (2) 場所 ホテルブエナビスタ メディアーナ (3) 参加者 92名(定員100名) (4) 内容 ア 記念講演 「ウーマン リーダーシップ ～野球を知らない私が世界野球連盟の理事に～」 イ シンポジウム 「女子野球タウンまつもとの目指すもの」 2 松本ローズカッププレ大会の開催 (1) 開催日 令和4年10月1日(土)、10月2日(日) (2) 場所 松本市四賀球場 (3) 出場校 岐阜第一高校、福井工業大学附属福井高校、松本国際高校 (4) 内容 3校総当たりで試合を実施 3 女子野球教室・未来トーク (1) 開催日 令和4年10月1日(土) (2) 場所 松本市四賀球場 (3) 参加者 女子野球教室 27人、未来トーク 99人 (4) 内容 ア 女子野球教室では、基本動作を指導 イ 「私が輝く女子野球タウンまつもと」をテーマにグループトークを実施	対象指標	①	
	②		
	活動指標	①	松本市の女子野球人口(小中高合計)
	②	女子野球タウン推進事業への参加者	
	③		
	成果指標	①	
	②		
	③		
	効率指標	①	
	②		

【今後の方向性】

一次評価 (内部評価)		今後の見込み		
今後の実施方向性	継続	前年度の結果		
今後も女子野球を活用して、女性スポーツの推進や、ジェンダー平等の実現に繋がる事業及び市PRに結び付け、本事業を進めていく。		成果	コスト	
			削減	
			維持	
			増大	○

二次評価 (外部評価)				
1) 内容評価 女子野球という新たな基軸に力点を置いた事業の展開は、本市にとって大きな意義を持っているものと思われる。松本ローズカップの開催などを通じて、地域の中に女子野球の普及・促進という機運が高まることを期待する。 2) 指標の設定 2つの活動指標が設定されているが、まずは目標年度にそれぞれの目標値が達成できるように注力して頂きたい。 3) 今後の方向性 まだまだ松本市の女子野球人口は多いとは言えないが、地道な取り組みを通じて、本市が女子野球の先進地となりうるよう進めて頂きたい。プロスポーツ振興事業と連携しながら、女子野球教室の充実を図ることなども検討して欲しい。				

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	人	なし	23	59	65	70	R 7	84%
	②	人	なし	103	200	240	280	R 7	71%
	③								#DIV/0!
成果指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

成果指標の増減維持理由

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	0	0	0	4,924	7,434
事業費	千円				1,900	4,410
特定財源	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	受益者負担					
	その他					
	一般財源	千円	0	0	0	1,900
人件費合計	千円	0	0	0	3,024	3,024
正規職員	千円	0	0	0	3,024	3,024
人員	人				0.4	0.4
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	0	0	0	0	0
人員	人					
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円					

トータルコストの増減維持理由

令和5年度は、7地域リーグの代表チームが集結する松本ローズカップを開催するため事業費が増額

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか		
一次評価	B	なっている
【有効性評価】 2. 事業内容や方向性が想定する成果や期待する効果に結びつくものになっているか		
一次評価	B	想定する成果や効果に結びつくものになっている
【効率性評価】 3. 事業コストや人的コストが適正なものになっているか		
一次評価	B	なっている

【総合評価】

評価	B	
----	---	--

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	パラスポーツ普及啓発事業		
担当所属	スポーツ推進課	連絡先	45-9512
関連所属	障がい福祉課		

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-3 スポーツを楽しむ環境の充実				
総合計画	分野	7 文化・観光	中事業名	パラスポーツ普及啓発事業	
	基本施策	7-3 スポーツを楽しむ環境の充実			
事業期間	2020 ~	会計種別	一般会計	事業種別	政策的事務
根拠法令要綱	スポーツ基本法、スポーツ基本計画（第3期）、松本市スポーツ推進計画、松本市障害者計画				
地域区分	-	施設種別	-	予算要求区分	政策的経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 パラスポーツをツールとした生涯スポーツを提供し、健常者も障がい者と一緒にスポーツが出来る環境を生み出し共生社会実現を目指します。また関係者の資質向上を行います。 内容 1 体験会、フリースペース運営、アスリート発掘（10回同時開催） ボッチャ、パラ卓球、車いすラグビー、車いすバスケ、車いすダンス、車いすソフトボール、フロアホッケー、フロアバレーボール、フライングディスク、車いすレーサー（R3パラ陸上、車いすテニス、シッティングバレーボール、吹矢、パラスキー） 2 障がい者スポーツ指導員資格取得 上級1名、初級1名 3 パラスポーツ人材バンク登録と活用 (1) 登録競技：ボッチャ、卓球バレー、フライングディスク、フロアホッケー (2) 派遣・紹介延数：ボッチャ8、フライングデスク2、卓球1 4 関係機関・団体等との連携強化 共済・協力事業（県3、県障がい者スポーツ協会2、サンスポート松本2） 5 パラスポーツ用具貸出（貸出用備品） (1) 競技用車いす1台→5台 (2) ボッチャボール2セット→5セット	対象指標	
	①	
	②	
	活動指標	
	①	パラスポーツ事業参加者満足度（アンケート）
	②	事業参加延数（スタッフ含む）
	③	事業参加障害者割合
	成果指標	
	①	事業にかかわる企業数
	②	HP閲覧数
③		
効率指標		
①		
②		

【今後の方向性】

一次評価（内部評価）		今後の見込み		
今後の実施方向性	拡大	前年度の結果	継続	コスト
多くの市民にパラスポーツを知ってもらうため、健常者と障がいのある人が一緒にスポーツできる環境を提供する。共生社会のツールとなることを知ってもらうためには、今後、事業の拡大を図り、継続的な活動が今後必要。競技性の高い種目は備品購入が必要である。		削減		
		維持		
		増大		
成果	上昇			○
	維持			
	縮小			

二次評価（外部評価）				
1) 内容評価				
共生社会の実現を進めていく上でも、パラスポーツというアプローチは有用であると思われる。市民が広くパラスポーツに参加できる環境を整えることには、それ相応の時間やコストがかかると思われるが、継続的な事業展開を図ることで、同事業の趣旨・目的の達成に努めて頂きたい。				
2) 指標の設定				
活動指標のひとつに「事業参加延数」が設定されているが、事業の目的に照らして、ここにスタッフの人数も換算したという点はとても良い判断であると思われる。				
3) 今後の方向性				
多くの市民にパラスポーツを知ってもらうためには、企業参加やDXの関与はもちろん、各教育機関との連携も大切になってくるのではないだろうか。周知の方法については、再度、検討して頂きたい。				

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	%	-	100	94	80	80	毎年	118%
	②	人	-	288	642	590	590	毎年	109%
	③	%	-	17	24	25	25	R5	96%
成果指標	①	社	-	2	4	5	5	R5	80%
	②	回	-	不明	1,946	3,500	5,900	R7	33%
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

参加者が増えたことに伴い多様な意見が増え、満足度が減少した。R3はコロナで4回中止/10回となった。指標は、障害者手帳所持者数（R2約14,000、18～64歳5,871、人口の2.5%）、人口（R5約23,600）の0.25%を参加延数、障害者参加割合を25%に設定。事業に「知る」目的があることからスタッフも人数に換算した。R3開始の事業のため、増加に期待する。

成果指標の増減維持理由

周知をしていく上で企業参加やDXの関与は欠かせないため指標とした。HP閲覧数の1%が顧客数と見込まれる統計データがあるため、人口の2.5%（18～64歳の手帳所持者数と同等数）の閲覧数を目標に設定した。毎年、1500ずつ増える見込み。今後の増加に期待する。

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	0	0	9,780	11,150	14,636
事業費	千円			720	1,790	2,540
特定財源	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	受益者負担	千円				
	その他	千円				
	一般財源	千円	0	0	720	510
人件費合計	千円	0	0	9,060	9,360	12,096
正規職員	千円	0	0	7,560	7,560	12,096
人員	人			1.0	1.0	1.6
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	0	0	1,500	1,800	0
人員	人			0.5	0.6	
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円					

トータルコストの増減維持理由

R5は正規職員による関係機関との連絡調整強化、備品の購入費増（物価高が影響）により、トータルコストが増加している。R4は日本パラスポーツ協会の補助金を利用した。

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか	
一次評価	A 市の目指す姿に大きく貢献する事業
【有効性評価】 2. 事業内容や方向性が想定する成果や期待する効果に結びつくものになっているか	
一次評価	A 想定以上の成果や効果に結びつくものになっている
【効率性評価】 3. 事業コストや人的コストが適正なものになっているか	
一次評価	B なっている
備品不足、指導者不足	

【総合評価】

評価	B
----	---

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	アルプスリゾートブランディング事業		
担当所属	アルプスリゾート整備本部	連絡先	94-2307
関連所属			

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現				
総合計画	分野	7 文化・観光	中事業名	アルプスリゾートブランディング事業費	
	基本施策	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現			
事業期間	R3 ~	会計種別	一般会計	事業種別	政策的事務
根拠法令要綱					
地域区分	安曇	施設種別	-	予算要求区分	政策的経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 「岳都・松本」を市民の誇りとして認識してもらうとともに、旅行者の満足度を高めて、リピート化や滞在型につなげるために、各エリアが持つ特色と魅力を磨き上げ、上質な山岳リゾートの実現を目指す。 内容 1 地域ブランディング事業 (1) 松本高山BigBridge構想の実現とともに、各エリアの特色や魅力を磨き上げるために、観光コンテンツの造成やPRを実施する。 (2) 宣伝効果の高いオンラインプロモーションやデジタル広告等を使いながら、適切な層に訴求させ、効果検証によるPDCAサイクルを推進する。 2 地域プロジェクトマネージャー (PM) の任用 (1) 乗鞍地域等の観光振興施策を強力に推進するため、地域PMを任用する。 (2) 地域PMの意見を取り入れながら効果的なプロモーションを行えるよう協議し、必要に応じて補正予算で対応していく。 3 山の日事業、岳都・松本「山岳フォーラム」 (1) 里山歩きからキャンプ、本格登山まで山や自然をテーマに、座学やフィールドワークを実施し、幅広い世代に自然の魅力を浸透させ、技術習得をするための事業を行う。 (2) 山の日事業：第1回大会から続く四方山祭りを継続実施し、岳都・松本をPRする。	対象指標	①		
			②	
		活動指標	①	山岳エリアの観光客入込数
			②	
			③	
		成果指標	①	山岳エリアの1人当たりの日本人観光消費額
			②	
			③	
		効率指標	①	
			②	

【今後の方向性】

一次評価 (内部評価)				
今後の実施方向性	継続	前年度の結果	継続	
・世界に冠たる山岳リゾートを実現するため、観光プロモーション課及び観光関連団体と連携し、アルプスエリアの魅力を効果的に発信し、ポストコロナを見据えた誘客活動を強化する。 ・観光地のエリアブランディングを行うプロジェクトマネージャーを登用し、デジタルコンテンツを活用したプロモーション等を実施する。			今後の見込み	
			コスト	
			削減	維持
	成果	上昇		
		維持	○	
		縮小		

二次評価 (外部評価)			
1) 内容評価			
旅行者の満足度の向上、それをもとにしたリピート化は、極めて重要な課題であると思われる。山岳エリアのブランド化を進めるために、地域プロジェクトマネージャーという仕組みを取り入れた点は興味深い。この仕組みが有効に機能することを期待したい。			
2) 指標の設定			
現在の成果指標は「山岳エリア1人当たりの日本人観光消費額」となっているが、外国人観光客について考慮する必要はないだろうか。また、山の日事業で展開されるイベントへの参加者数などを指標に組み込むことを検討しても良いのではないだろうか。			
3) 今後の方向性			
新たに任用された地域プロジェクトマネージャーと連携しながら、効果的な事業・プロモーションの展開がなされるよう注力して頂きたい。			

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	人	962,700	978,400	1,483,400	2,053,300	2,258,600	R7	66%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
成果指標	①	円		35,797	41,102	46,000	50,000	R7	82%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

成果指標の増減維持理由

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	0	0	0	36,670	33,850
事業費	千円				25,860	22,890
特定財源	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	受益者負担					
	その他					
	一般財源	千円	0	0	0	25,860
人件費合計	千円	0	0	0	10,810	10,960
正規職員	千円	0	0	0	7,560	7,560
人員	人				1.0	1.0
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	0	0	0	2,250	2,400
人員	人				0.8	0.8
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円				1,000	1,000

トータルコストの増減維持理由

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか		
一次評価	B	なっている
【有効性評価】 2. 事業内容や方向性が想定する成果や期待する効果に結びつくものになっているか		
一次評価	B	想定する成果や効果に結びつくものになっている
【効率性評価】 3. 事業コストや人的コストが適正なものになっているか		
一次評価	B	なっている

【総合評価】

評価	B	
----	---	--

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	乗鞍ゼロカーボンパーク推進事業		
担当所属	アルプスリゾート整備本部	連絡先	94-2307
関連所属			

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現				
総合計画	分野	7 文化・観光	中事業名	乗鞍ゼロカーボンパーク推進事業	
	基本施策	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現			
事業期間	令和4年度 ~	会計種別	一般会計	事業種別	政策的事務
根拠法令要綱					
地域区分	安曇	施設種別		予算要求区分	政策的経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 乗鞍高原が国が登録するゼロカーボンパーク第1号に登録されたことから、乗鞍高原における脱炭素・脱プラを推進し、持続可能な観光地として整備するとともに、国内外に乗鞍高原の魅力を発信するもの。 内容 1 普及啓発事業 松本市アルプス山岳郷エリア、乗鞍高原エリアでの脱炭素や脱プラに関する内部啓発事業を実施するもの(セミナーやワークショップの開催) 2 基本構想・基本計画策定事業 老朽化した市乗鞍観光センター及びバス待合所をゼロカーボン拠点施設として再編整備するための、基本計画を策定するもの 3 日本みどりのプロジェクト推進事業 日本みどりのプロジェクト推進協議会に加入し、国、県とのネットワークの強化によるサステナブルツーリズムの推進を図るもの	対象指標	①		
			②	
		活動指標	①	セミナー等開催回数
			②	ワークショップ・地元ヒアリングの実施による地域意見の集約
			③	
		成果指標	①	普及啓発事業を通して事業化した件数
			②	
			③	
		効率指標	①	
			②	

【今後の方向性】

一次評価 (内部評価)		今後の見込み		
今後の実施方向性	拡大	前年度の結果	継続	
・ゼロカーボンパーク登録初年度であったため、職員、住民や観光事業者も含め、脱プラ・脱炭素について認識が十分でなかったが、インプットの期間として普及啓発事業を実施することで、理解が深まった。 ・次年度はゼロカーボンを展開するうえで、実践的な内容として引き続き普及啓発事業を実施していく。 ・乗鞍観光センターの基本構想、基本計画を住民とのワークショップを重ねていくことで策定ができた。				コスト
				削減
				維持
				増大
				成果
				上昇
				維持
				縮小

二次評価 (外部評価)				
1) 内容評価	乗鞍高原における脱炭素・脱プラ推進という目的に向けて、各事業（普及啓発事業、基本構想・基本計画策定事業、日本みどりのプロジェクト推進事業）とも着実に動き出している。地域住民、事業者の方々の理解を深めるためにも、普及啓発事業を継続的に展開することが重要であると思われる。			
2) 指標の設定	成果指標として「普及啓発事業を通して事業化した件数」が設定されている。この点に関して、R5年度に具体的な成果を出すことは難しいのかもしれないが、目標年度の目標値の達成に向けて、事業化の芽を着実に育てていって頂きたい。			
3) 今後の方向性	ゼロカーボンパークというキーワードが乗鞍高原の魅力を増幅し、国内外からの誘客をより一層増やせるようになることを期待したい。			

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	回			5	5	5	R8	100%
	②	件			5	0	5	R8	100%
	③								#DIV/0!
成果指標	①	件				0	5	R8	0%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

成果指標の増減維持理由

普及啓発事業は現状、住民や観光事業者へのインプットの段階であるため、次年度以降、より実践的な形でアウトプットを生み出していく。

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	0	0	0	19,636	28,916
事業費	千円				14,300	22,380
特定財源	国庫支出金				9,533	
	県支出金					
	地方債					
	受益者負担					
	その他					
	一般財源	千円	0	0	0	4,767
人件費合計	千円	0	0	0	5,336	6,536
正規職員	千円	0	0	0	4,536	4,536
人員	人				0.6	0.6
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	0	0	0	0	0
人員	人					
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円				800	2,000

トータルコストの増減維持理由

令和4年度は基本構想・基本計画策定、令和5年度はアスベスト調査、地盤調査及びPFI導入可能性調査を実施予定、令和6年度はPFIアドバイザー業務、令和7年度以降はPFI事業（設計、工事）を進めるためコストは増加傾向となる。

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか		
一次評価	B	なっている
【有効性評価】 2. 事業内容や方向性が想定する成果や期待する効果に結びつくものになっているか		
一次評価	B	想定する成果や効果に結びつくものになっている
【効率性評価】 3. 事業コストや人的コストが適正なものになっているか		
一次評価	C	概ねなっている

【総合評価】

評価	B		
----	---	--	--

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	野麦峠スキー場管理事業		
担当所属	アルプスリゾート整備本部	連絡先	0263-94-2307
関連所属			

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現				
総合計画	分野	7 文化・観光	中事業名	奈川観光施設事業	
	基本施策	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現			
事業期間	昭和56年 ~	会計種別	奈川観光施設事業特別会計	事業種別	政策的事務
根拠法令要綱					
地域区分	奈川	施設種別	スポーツ・公園施設	予算要求区分	政策的経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 市民等のウィンタースポーツの振興、地域の活性化及び雇用の創出を図るため、野麦峠スキー場の更なる利用促進に取り組むもの 内容 1 事業内容 安全で快適なスキー場の運営のため、リフトの整備計画を立て、優先順位を付け整備していくもの。 営業開始から40年以上が経過する中で、施設の老朽化が進み、現場技術者の点検結果から、整備の優先順位を毎年調整する必要がある。 2 活動実績 令和4年度工事 ・第8高速ペアリフト他改修工事 12,870千円 ・第7スカイライナーリフト落雷被害復旧工事 1,210千円	対象指標	①	
		②	
	活動指標	①	山岳エリアの観光客入込数
		②	
		③	
	成果指標	①	野麦峠スキー場利用者数
		②	
		③	
	効率指標	①	
		②	

【今後の方向性】

一次評価 (内部評価)				
今後の実施方向性	継続	前年度の結果	継続	
「持続可能な奈川地区推進協議会」で奈川地区の今後の在り方を検討していく中で、スキー場の存廃についても検討されている。リフトは計画的に整備されているが、リフト以外の施設についても更新していく必要があり、特に雪不足を補う降雪機の更新は早急に対応しなければならない。 また、持続可能な施設であるために、グリーンシーズンを含めて、通年を通した誘客の仕組みを早急に検討する必要があると思われる。	今後の見込み			
		コスト		
	成果	上昇		
	維持		○	
	縮小			

二次評価 (外部評価)			
1) 内容評価	「持続可能な奈川地区推進協議会」において、スキー場の存廃を含め、奈川地区全体の今後の在り方の検討がなされているとのこと。リフトの整備はもちろん、リフト以外の施設の更新についても多額のコストがかかることから、そのコストに見合った利用方法を検討することが喫緊の課題であると思われる。		
2) 指標の設定	成果指標として「野麦峠スキー場利用者数」が設定されている。天候の影響等によって利用者数が増減することは仕方がないが、目標値の達成に向けて、具体的な施策(ソフト面での対応)を検討して頂きたい。		
3) 今後の方向性	今後も各種施設の整備を継続とするならば、グリーンシーズンを含めて、通年を通した誘客の仕組みを早急に検討する必要があると思われる。		

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	人	962,700	978,400	1,483,400	2,053,300	2,258,600	令和7年度	66%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
成果指標	①	人	25,523	31,249	25,768	33,000	33,000	令和7年度	78%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

成果指標の増減維持理由

令和3年度は、市内の小中学生と保護者を対象にしたリフト券購入補助の効果があり、コロナ禍の中でも入込数が伸びたが令和4年度は、コロナ禍や悪天候により営業日数が減少したため、入込数も減少した。

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算	
トータルコスト	千円	125,629	217,729	125,430	111,119	170,100	
事業費	千円	118,069	210,169	117,870	103,559	162,540	
特定財源	国庫支出金	千円					
	県支出金	千円					
	地方債	千円	47,900	117,600	35,400	12,800	45,900
	受益者負担	千円					
	その他	千円					
	一般財源	千円	70,169	92,569	82,470	90,759	116,640
人件費合計	千円	7,560	7,560	7,560	7,560	7,560	
正規職員	千円	7,560	7,560	7,560	7,560	7,560	
人員	人	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	0	0	0	0	0	
人員	人						
会計年度(3類)職員	千円						
その他職員	千円						

トータルコストの増減維持理由

【事業の評価】

[目的妥当性評価] 1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか	
一次評価	C 概ねなっている
[有効性評価] 2. 事業内容や方向性が想定する成果や期待する効果に結びつくものになっているか	
一次評価	C 概ね結びつくものになっている
[効率性評価] 3. 事業コストや人的コストが適正なものになっているか	
一次評価	C 概ねなっている

【総合評価】

評価	C
----	---

令和 5年度 事務事業評価表 (令和 4年度 継続事務事業)

事務事業名	上高地観光施設事業		
担当所属	アルプスリゾート整備本部	連絡先	94-2307
関連所属			

【事務事業基本情報】

分野	7 文化・観光				
基本施策	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現				
総合計画	分野	7 文化・観光	中事業名	上高地観光施設事業費	
	基本施策	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現			
事業期間	～	会計種別	上高地観光施設事業会計	事業種別	その他
根拠法令要綱					
地域区分	安曇	施設種別	観光・交流施設	予算要求区分	経常経費

【事業概要・指標】

事業概要 趣旨・目的 地域活動の重要な施設として、誰もが快適に過ごせるようにおもてなしの向上を図るとともに、施設の適正な維持管理に努め、信頼され選ばれる施設として健全な経営につなげる。 内容 1 実施内容 新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図り、観光客の受入れを行った。 (1) 姉妹都市に対する特別割引プランの実施 (2) 各種支援事業の実施（信州割SPECIAL等） (3) 上高地アルペンホテルの取組み ア オンラインシステムや予約サイトを通じた空室提供及び空室管理 イ 新たなツアーの造成 (4) 上高地食堂の取組み 新メニューの開発や特産品の販売 (5) 徳沢ロッジの取組み SNSを活用した、情報発信による集客促進 2 活動実績（施設別利用客数） (1) 上高地アルペンホテル R3 4,286人 R4 8,216人 (2) 上高地食堂 R3 48,589人 R4 79,262人 (3) 徳沢ロッジ R3 3,148人 R4 4,294人 (4) 焼岳小屋 R3 297人 R4 124人 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度は、4月中旬から営業を始めたが、都道府県単位ごとに、再度、緊急事態宣言が発令されたため、利用客のキャンセルが相次いだ。	対象指標	①	
	②		
	活動指標	①	山岳エリアの観光客入込数
	②		
	③		
	成果指標	①	山岳エリアの1人当たりの日本人観光消費額（円）
	②		
	③		
	効率指標	①	
	②		

【今後の方向性】

一次評価（内部評価）		今後の実施方向性		継続	前年度の結果	継続	今後の見込み			
成果	上 昇 維持 縮小	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度は観光業全体と同様に上高地も大きな影響を受けた。しかし、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響は落ち着き、宿泊施設はコロナ禍以前の9割程度まで業績が回復している。一方で上高地全体観光客数はまだ回復しておらず、日帰り利用者が多くを占める上高地食堂の業績は芳しくない。今後は、状況を注視しながら、コロナ収束後に向けた、新たなツアーの造成、メニュー開発、また、SNSを活用した情報発信を強化し、収益の増加に取り組む。					コスト	削減	維持	増大
										○

二次評価（外部評価）		1) 内容評価		2) 指標の設定		3) 今後の方向性			
新型コロナウイルスが5類に変更となったことを契機に、今後は、宿泊客はもちろん、日帰り利用者の増加が見込まれる。新規旅行者の獲得も大切であるが、実際に上高地に足を運んで頂いた旅行者の満足度を高めて、リピート率を高めることも重要である。そのために向けた具体策の検討を進めて頂きたい。		現在の成果指標は「山岳エリア1人当たりの日本人観光消費額」となっているが、外国人観光客について考慮する必要はないだろうか。		施設の維持管理はもちろん、付加価値をつけたツアー、体験プログラムの開発、新メニュー・特産品の開発など、実際に上高地に足を運んで頂いた旅行者が「また来たい」と思うような仕掛けづくりが必要であると思われる。					

【指標の推移】

		単位	R 2年度実績	R 3年度実績	R 4年度実績	R 5年度見込	目標値	目標年度	達成度
対象指標	①								
	②								
活動指標	①	人	962,700	978,400	1,483,400	2,053,300	2,258,600	R7	66%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
成果指標	①	円		35,797	41,102	46,000	50,000	R7	82%
	②								#DIV/0!
	③								#DIV/0!
効率指標	①								#DIV/0!
	②								#DIV/0!

活動指標の増減維持理由

成果指標の増減維持理由

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成31年度 決算	令和 2年度 決算	令和 3年度 決算	令和 4年度 決算	令和 5年度 予算
トータルコスト	千円	391,360	250,660	283,670	372,570	418,670
事業費	千円	391,360	250,660	276,110	365,010	411,110
特定財源	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	受益者負担	千円				
	その他	千円				
	一般財源	千円	391,360	250,660	276,110	365,010
人件費合計	千円	0	0	7,560	7,560	7,560
正規職員	千円	0	0	7,560	7,560	7,560
人員	人			1.0	1.0	1.0
会計年度(フル、1・2類)職員	千円	0	0	0	0	0
人員	人					
会計年度(3類)職員	千円					
その他職員	千円					

トータルコストの増減維持理由

令和3年は新型コロナウイルス感染症により、営業を縮小していたが、令和5年度からは営業はコロナ禍前とほぼ同等を予定しているため増加した。

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 事業の目的、内容、方向性等が市の目指す姿を実現するためのものになっているか		
一次評価	B	なっている
【有効性評価】 2. 事業内容や方向性が想定する成果や期待する効果に結びつくものになっているか		
一次評価	B	想定する成果や効果に結びつくものになっている
【効率性評価】 3. 事業コストや人的コストが適正なものになっているか		
一次評価	B	なっている

【総合評価】

評価	B	
----	---	--